

【表紙】	
【提出書類】	有価証券報告書
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年 8 月27日
【計算期間】	第22特定期間 (自 平成24年11月28日 至 平成25年 5 月27日)
【ファンド名】	毎月分配 ハイクオリティ・ユーロ債券ファンド
【発行者名】	大和住銀投信投資顧問株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 多田 正己
【本店の所在の場所】	東京都千代田区霞が関三丁目 2 番 1 号
【事務連絡者氏名】	宮崎 洋行
【連絡場所】	ディスクロージャー部
【電話番号】	03-6205-0200
【縦覧に供する場所】	該当ありません。

第一部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

(1)【ファンドの目的及び基本的性格】

①ファンドの目的

当ファンドは、主として信用力の高いユーロ通貨建ての国債等を中心に投資を行うことにより、安定的なインカムゲイン（利息収益）の確保を図るとともに信託財産の長期的な成長を目指して運用を行います。

②ファンドの基本的性格

当ファンドにおける一般社団法人投資信託協会による商品分類・属性区分は以下の通りです。

<商品分類表>

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)
単位型	国 内	株 式
	海 外	債 券
	内 外	不動産投信
追加型		その他資産 ()
		資産複合

(注) 当ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。

※商品分類表の各項目の定義について

追加型投信…一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいいます。

海外…目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

債券…目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に債券を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

上記以外の各区分の定義の詳細については、一般社団法人投資信託協会のホームページ (<http://www.toushin.or.jp/>) をご参照ください。

<属性区分表>

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	為替ヘッジ
株式 一般 大型株 中小型株	年1回	グローバル	あり ()
	年2回	日本	
	年4回	北米	
債券 一般	年6回 (隔月)	欧州	
公債		アジア	
社債	年12回 (毎月)	オセアニア	なし
その他債券		中南米	
クレジット属性 (高格付債)	日々	アフリカ	
不動産投信	その他 ()	中近東 (中東)	
その他資産 ()		エマージング	
資産複合 ()			
資産配分固定型			
資産配分変更型			

(注) 当ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。

※属性区分表に記載している「為替ヘッジ」は、対円での為替リスクに対するヘッジの有無を記載しております。

※属性区分表の各項目の定義について

債券 公債…目論見書又は投資信託約款において、日本国又は各国の政府の発行する国債（地方債、政府保証債、政府機関債、国際機関債を含む。以下同じ。）に主として投資する旨の記載があるものをいいます。

クレジット属性（高格付債）

…目論見書又は投資信託約款において、高格付債（当ファンドにおいて高格付けとは、シングルA格（A－／A3）相当以上の格付けをいいます。）に主として投資する旨の記載があるものをいいます。

年12回（毎月）…目論見書又は投資信託約款において、年12回（毎月）決算する旨の記載があるものをいいます。

欧州…目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が欧州地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

為替ヘッジなし…目論見書又は投資信託約款において、為替のヘッジを行わない旨の記載があるもの又は為替のヘッジを行う旨の記載がないものをいいます。

上記以外の各区分の定義の詳細については、一般社団法人投資信託協会のホームページ（<http://www.toushin.or.jp/>）をご参照ください。

③ファンドの特色

1

信用力の高いユーロ通貨建ての国債等を主要投資対象とし、アクティブに運用します。

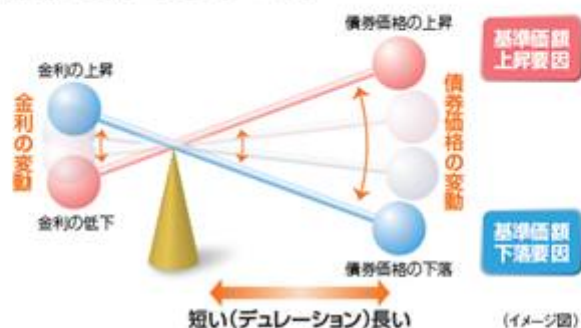
- 投資する公社債については、取得時において、原則としてシングルA格（A－／A3）相当以上を取得しているものとします。また、ファンド全体の平均格付けは、原則としてダブルA格（AA－／Aa3）相当以上とします。
- ファンドの平均デュレーションは、ベンチマークのデュレーションの±2年程度の範囲内とします。
- 外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジは行いません。
- 国債以外の公社債（事業債等）への投資は、取得時において信託財産の純資産総額の30%以内とします。
- ユーロ通貨以外の通貨建ての資産への投資は、取得時において信託財産の純資産総額の15%以内とします。

格付けとは

*格付けとは、債券などの元本および利息が償還まで当初の契約の定め通り返済される確実性の程度を評価したものをいいます。信用度の高い格付けを持つ債券ほど、元本および利息が償還まで当初の契約の定め通り支払われる確実性は高くなります。

**デュレーションとは**

*デュレーションとは、「投資元本の平均的な回収期間」を表す指標で、単位は「年」で表示されます。また、「金利の変動に対する債券価格の変動性」の指標としても利用され、一般的にこの値が長い（大きい）ほど、金利の変動に対する債券価格の変動が大きくなります。



2 シティグループEMU国債インデックス（円換算）をベンチマークとし、中長期的にベンチマークを上回る投資成果を目指します。

シティグループEMU国債インデックスとは、シティグループ・グローバル・マーケット・インクが開発した債券指数です。同指数に関する著作権等の知的財産権およびその他一切の権利はシティグループ・グローバル・マーケット・インクに帰属します。また、シティグループ・グローバル・マーケット・インクは同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。シティグループEMU国債インデックス（円換算）とは、ユーロ通貨ベースのシティグループEMU国債インデックスを委託会社が円換算したものです。

<ベンチマーク構成国（2013年6月末現在）>

アイルランド、イタリア、オーストリア、オランダ、スペイン、ドイツ、フランス、フィンランド、ベルギー

（注1）ベンチマーク構成国以外の国の債券へ投資する場合があります。

（注2）ベンチマーク構成国は今後変更になる場合があります。

（注3）EMU（Economic and Monetary Union: 経済通貨同盟）とは、EU（欧州連合）加盟国により、単一通貨「Euro：ユーロ」の導入・金融政策の一元化を実施している同盟です。

●シティグループEMU国債インデックス（円換算）



2003年6月末を100として指数化

出所：Bloombergより大和住銀投信投資顧問作成

3 運用の指図にかかる権限をT. ロウ・プライス・インターナショナル・リミテッドへ委託します。

<T. ロウ・プライス・インターナショナル・リミテッドの概要>

同社（所在地：英国ロンドン）は、米国T. ロウ・プライス・グループの運用会社です。同グループの代表的な会社であるT. ロウ・プライス・アソシエイツ・インクは、1937年に設立された会社で、グローバルに資産運用業務を行っております。T. ロウ・プライス・アソシエイツ・インクの親会社であるT. ロウ・プライス・グループ・インクは、米国の上場会社であり、また、S&P500インデックスの採用銘柄です。T. ロウ・プライス・インターナショナル・リミテッドは、T. ロウ・プライス・グループの運用技術および調査能力を活用することができます。

運用プロセス



4 毎月の決算日に収益の分配を目指します。

- 決算日は、毎月の27日（休業日の場合は翌営業日）とします。
- 分配対象額の範囲は、経費控除後の利子・配当収益および売買益（評価損益を含みます。）等の範囲内とします。
- 収益分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して、委託会社が決定します。ただし、分配対象額が少額な場合等には分配を行わないことがあります。
- 将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。



※上記はイメージであり、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

資金動向、市況動向によっては上記のような運用ができない場合があります。

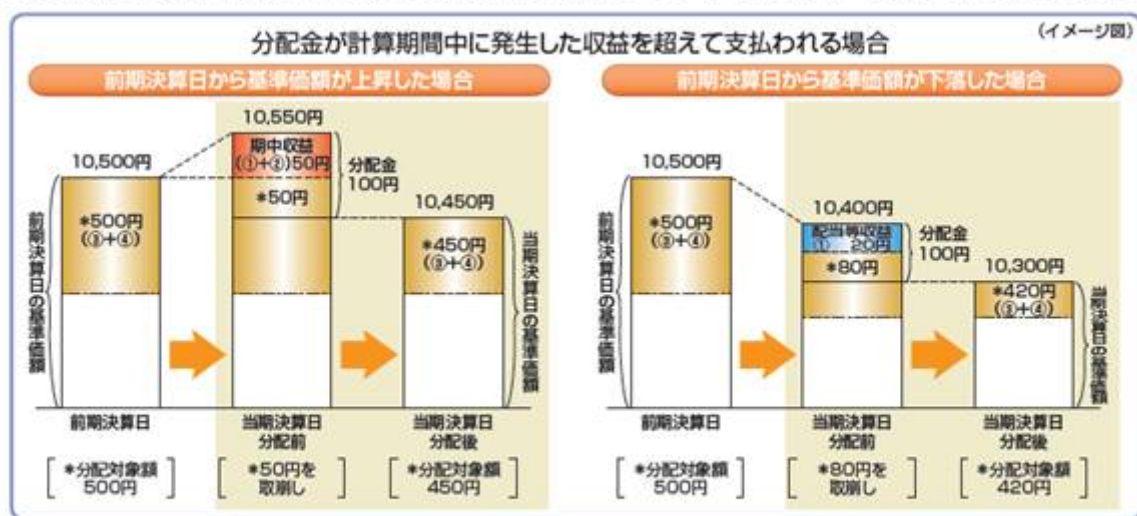
下記は投資信託における「収益分配金に関する留意事項」を説明するものであり、当ファンドの分配金額や基準価額を示すものではありません。

収益分配金に関する留意事項

分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。



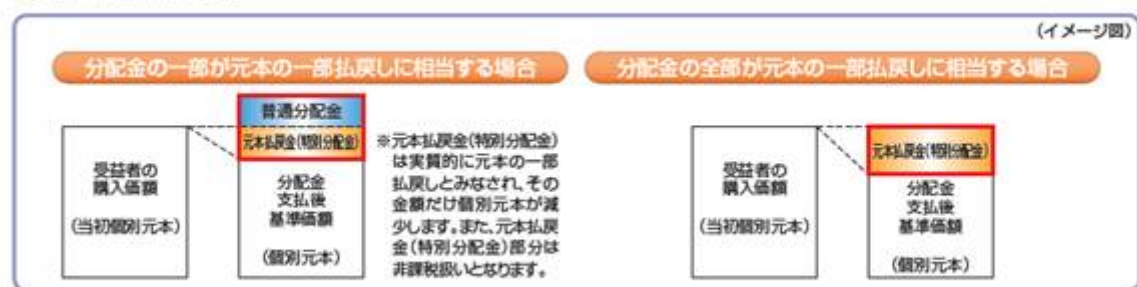
分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。



(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

受益者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりの方が小さかった場合も同様です。



普通分配金：個別元本(受益者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金(特別分配金)：個別元本を下回る部分からの分配金です。

分配後の受益者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

ファンドの仕組み



④信託金の限度額

信託金の限度額は、1兆円とします。委託会社は、受託会社と合意のうえ、限度額を変更することができます。

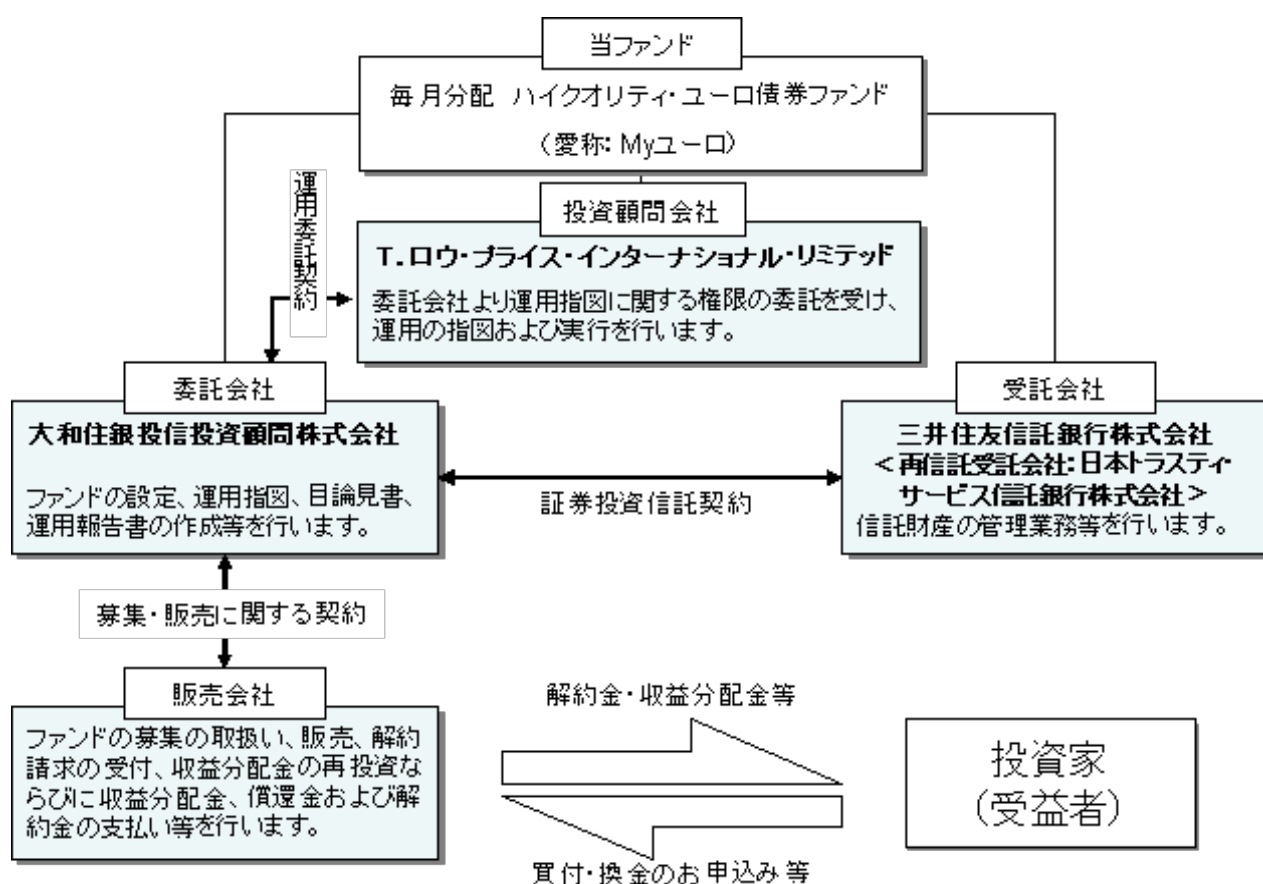
(2)【ファンドの沿革】

平成14年6月7日 信託契約締結

平成14年6月7日 当ファンドの設定・運用開始

平成19年1月4日 投資信託振替制度へ移行

(3)【ファンドの仕組み】



①委託会社等が関係法人と締結している契約等の概要

関係法人	契約等の概要
受託会社	ファンドの運用方針、投資制限、信託報酬の総額、ファンドの基準価額の算出方法、ファンドの設定・解約等のファンドの運営上必要な事項が規定されている信託契約を締結しています。
販売会社	販売会社に委託するファンドの募集・販売に係る業務の内容、解約に係る事務の内容、およびこれらに関する手続き等について規定した契約を締結しています。
投資顧問会社	当ファンドの運用指図に関する権限等を規定した運用委託契約（投資一任契約）を締結しています。

②委託会社等の概況（平成25年6月末現在）

- ・資本金の額 20億円
- ・会社の沿革 昭和48年6月1日 大和投資顧問株式会社設立
平成11年2月18日 証券投資信託委託業の認可取得
平成11年4月1日 住銀投資顧問株式会社及びエス・ビー・アイ・エム投信株式会社と合併し、大和住銀投信投資顧問株式会社へ商号を変更

・大株主の状況

名称	住所	所有株式数 (株)	比率 (%)
株式会社大和証券グループ本社	東京都千代田区丸の内1-9-1 グラントウキョウ ノースタワー	1,692,500	44.0
株式会社三井住友フィナンシャルグループ	東京都千代田区丸の内1-1-2	1,692,500	44.0
ティー・アール・ピー・エイチ・コーポレーション	アメリカ合衆国21202, メリーランド州ボルチモア イースト プラットストリート100	385,000	10.0

2【投資方針】

(1)【投資方針】

- ①欧州の信用力の高いユーロ通貨建ての国債等を主要投資対象として、アクティブに運用します。
- ②投資する公社債は、原則として取得時において、シングルA格相当以上とします。また、ファンド全体の平均格付けをダブルA格相当以上とします。
- ③シティグループEMU国債インデックス（円換算）をベンチマークとし、中長期的にベンチマークを上回る投資成果を目指します。

④外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジは行いません。

⑤運用の指図に係る権限をT. ロウ・プライス・インターナショナル・リミテッドへ委託します。

⑥資金動向、市況動向によっては上記のような運用ができない場合があります。

（２）【投資対象】

①投資の対象とする資産の種類

この信託において投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

１．次に掲げる特定資産（「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第２条第１項で定めるものをいいます。以下同じ。）

イ．有価証券

ロ．デリバティブ取引に係る権利（金融商品取引法第２条第20項に規定するものをいい、信託約款に定めるものに限りします。）

ハ．金銭債権

ニ．約束手形（金融商品取引法第２条第１項第15号に掲げるものを除きます。）

２．次に掲げる特定資産以外の資産

イ．為替手形

②運用の指図範囲

委託会社（委託会社から運用の指図に係る権限の委託を受けたものを含みます。以下同じ。）

は信託金を、主として次の有価証券（金融商品取引法第２条第２項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図します。

１．国債証券

２．地方債証券

３．特別の法律により法人の発行する債券

４．社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券（以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。）を除きます。新株予約権付社債については、会社法第236条第１項第３号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの（以下会社法施行前の旧商法第341条ノ３第１項第７号および第８号の定めがある新株予約権付社債を含め「転換社債型新株予約権付社債」といいます。）に限りします。）

５．資産の流動化に関する法律に規定する特定社債券（金融商品取引法第２条第１項第４号で定めるものをいいます。）

６．転換社債の転換および転換社債型新株予約権付社債の新株予約権行使により取得した株券

７．特別の法律により設立された法人の発行する出資証券（金融商品取引法第２条第１項第６号で定めるものをいいます。）

８．協同組織金融機関にかかる優先出資証券（金融商品取引法第２条第１項第７号で定めるものをいいます。）

９．資産の流動化に関する法律に規定する優先出資証券又は新優先出資引受権を表示する証券（金融商品取引法第２条第１項第８号で定めるものをいいます。）

10. コマーシャル・ペーパー

11. 新株引受権証券（分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。）および新株予約権証券

12. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、前各号の証券または証書の性質を有するもの

13. 投資信託または外国投資信託の受益証券（金融商品取引法第２条第１項第10号で定める

ものをいいます。)

14. 投資証券または外国投資証券（金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。)
15. 外国貸付債権信託受益証券（金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。)
16. オプションを表示する証券または証書（金融商品取引法第2条第1項第19号で定めるものをいい、有価証券に係るものに限りま。
17. 預託証書（金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。)
18. 外国法人が発行する譲渡性預金証書
19. 指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限りま。
20. 抵当証券（金融商品取引法第2条第1項第16号で定めるものをいいます。)
21. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの
22. 外国の者に対する権利で前号の有価証券の性質を有するもの

なお、6の証券または証書、12ならびに17の証券または証書のうち6の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、1から5までの証券および12ならびに17の証券または証書のうち1から5までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といい、13の証券および14の証券を「投資信託証券」といいます。

③その他の金融商品の運用の指図

委託会社は、信託金を、前記②の有価証券の他、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することを指図することができます。

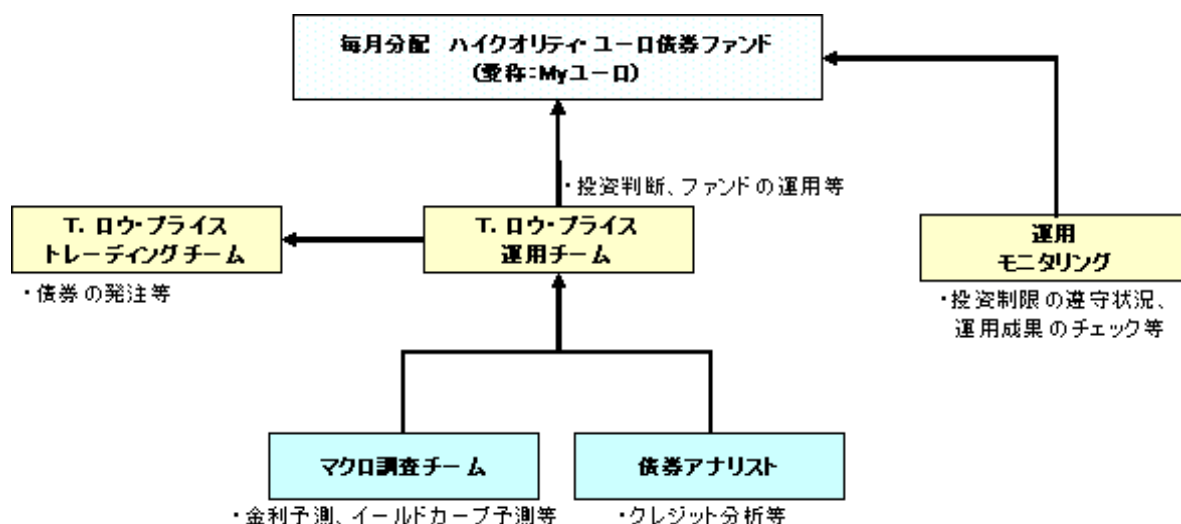
1. 預金
2. 指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。)
3. コール・ローン
4. 手形割引市場において売買される手形
5. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの
6. 外国の者に対する権利で前号の権利の性質を有するもの

また、この信託の設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託会社が運用上必要と認めるときには、委託会社は、信託金を、主として前記の1から6までに掲げる金融商品により運用することの指図ができます。

(3)【運用体制】

当ファンドでは、委託会社からファンドの運用の指図に関する権限の委託を受け、T. ロウ・プライス・インターナショナル・リミテッドが運用を行います。委託会社では、当ファンドのモニタリング（投資制限の遵守状況のチェック、運用成果のチェック）等を行います。

当ファンドにおけるT. ロウ・プライス・インターナショナル・リミテッドの運用体制は以下の通りです。



※当ファンドの運用モニタリング業務に従事する人員数は、平成25年6月末現在で約10名です。

※運用体制および人員数は、今後変更になる場合があります。

※運用リスク管理体制についての詳細は、後述の「3 投資リスク＜リスクの管理体制＞」に記載しております。

（4）【分配方針】

①毎決算時（毎月の27日。ただし、休業日の場合は翌営業日）に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。

- イ. 分配対象額の範囲は、経費控除後の利子・配当収益および売買益（評価損益を含みます。）等の範囲内とします。
- ロ. 収益分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して、委託会社が決定します。ただし、分配対象額が少額な場合等には分配を行わないことがあります。

ハ. 留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

②信託財産から生ずる毎計算期末における利益は、次の方法により処理します。

- イ. 配当金、利子、貸付有価証券にかかる品貸料およびこれらに類する収益から支払利息を控除した額（以下「配当等収益」といいます。）は、諸経費、信託報酬および当該信託報酬にかかる消費税等に相当する金額を控除した後、その残額を受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配金にあてるため、その一部を分配準備積立金として積立てることができます。
- ロ. 売買損益に評価損益を加減した利益金額（以下、「売買益」といいます。）は、諸経費、信託報酬および当該信託報酬にかかる消費税等に相当する金額を控除し、繰越欠損金のあるときは、その全額を売買益をもって補てんした後、受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配金にあてるため、分配準備積立金として積立てることができます。
- ハ. 毎計算期末において、信託財産につき生じた損失は、次期に繰り越します。

③収益分配金の支払いは、次の方法により行います。

- イ. 収益分配金は、毎計算期間終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日から、毎計算期間の末日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益

分配金にかかる計算期間の末日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる計算期間の末日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とし、）に支払います。なお、信託約款に規定する時効前の収益分配金にかかる収益分配金交付票は、なおその効力を有するものとし、当該収益分配金交付票と引き換えに受益者に支払います。

※収益分配金の支払いは、原則として決算日から起算して5営業日までに開始します。

- ロ、前項の規定にかかわらず、販売会社との間で締結した累積投資約款に基づく契約により収益分配金を再投資する受益者に対しては、受託会社が委託会社の指定する預金口座等に払い込むことにより、原則として、毎計算期間終了日の翌営業日に、収益分配金が販売会社へ交付されます。この場合、販売会社は、受益者に対し遅滞なく収益分配金の再投資にかかる受益権の売付を行います。当該売付けにより増加した受益権は、信託約款の規定にしたがい、振替口座簿に記載または記録されます。収益分配金を再投資する場合の受益権の価額は、原則として信託約款に定める各計算期間終了日（決算日）の基準価額とします。
- ハ、上記イ、に規定する収益分配金の支払いは、販売会社の営業所等において行うものとします。

（5）【投資制限】

当ファンドは、委託会社による当ファンドの運用に関して以下のような一定の制限および限度を定めています。

①信託約款に定める投資制限

イ、株式等への投資制限

- （イ）委託会社は、取得時において信託財産に属する株式（転換社債の転換および転換社債型新株予約権付社債の新株予約権行使により取得したものに限り、）の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。
- （ロ）委託会社は、取得時において信託財産に属する新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。

ロ、投資する株式等の範囲

- （イ）委託会社が投資することを指図する株式、新株引受権証券および新株予約権証券は、取引所[※]に上場（上場予定を含みます。）されている株式の発行会社の発行するもの、取引所に準ずる市場において取引されている株式の発行会社の発行するものとします。ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式、新株引受権証券および新株予約権証券については、この限りではありません。

※金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号ロに規定する外国金融商品市場をいいます。以下同じです。

- （ロ）前記にかかわらず、上場予定または登録予定の株式、新株引受権証券および新株予約権証券で目論見書等において上場または登録されることが確認できるものについては、委託会社が投資することを指図することができるものとします。

ハ、同一銘柄の株式等への投資制限

- （イ）委託会社は、取得時において信託財産に属する同一銘柄の株式の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。

- (ロ)委託会社は、取得時において信託財産に属する同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。

ニ. 投資信託証券への投資制限

委託会社は、信託財産に属する投資信託証券の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。

ホ. 信用取引の運用指図

- (イ)委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売付けることの指図をすることができます。なお、当該売付の決済については、株券の引渡しまたは買戻しにより行うことの指図をすることができますものとしします。
- (ロ)前項の信用取引の指図は、当該売付にかかる建玉の時価総額が、信託財産の純資産総額の範囲内とします。
- (ハ)信託財産の一部解約等の事由により、前項の売付にかかる建玉の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する売付の一部を決済するための指図をするものとしします。

ヘ. 先物取引等の運用指図

- (イ)委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、わが国の取引所における有価証券先物取引（金融商品取引法第28条第8項第3号イに掲げるものをいいます。）、有価証券指数等先物取引（金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。）および有価証券オプション取引（金融商品取引法第28条第8項第3号ハに掲げるものをいいます。）ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。なお、選択権取引は、オプション取引に含めて取扱うものとしします（以下同じ。）。
- (ロ)委託会社は、わが国の取引所における通貨にかかる先物取引ならびに外国の取引所における通貨にかかる先物取引およびオプション取引を行うことの指図をすることができます。
- (ハ)委託会社は、わが国の取引所における金利にかかる先物取引およびオプション取引ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。

ト. スワップ取引の運用指図

- (イ)委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、異なった通貨、異なった受取金利または異なった受取金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引（以下、「スワップ取引」といいます。）を行うことの指図をすることができます。
- (ロ)スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が、原則として信託約款に定める信託期間を超えないものとしします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
- (ハ)スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとしします。
- (ニ)委託会社は、スワップ取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めたときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとしします。

チ. 金利先渡取引および為替先渡取引の運用指図

- (イ)委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、金利先渡取引および為替先渡取引を行うことの指図をすることができます。
- (ロ)金利先渡取引および為替先渡取引の指図にあたっては、当該取引の決済日が、原則とし

て信託約款に定める信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。

- (ハ)金利先渡し取引および為替先渡し取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。
- (ニ)委託会社は、金利先渡し取引および為替先渡し取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めたときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。
- (ホ)金利先渡し取引とは、当事者間において、あらかじめ将来の特定の日（以下「決済日」といいます。）における決済日から一定の期間を経過した日（以下「満期日」といいます。）までの期間に係る国内または海外において代表的利率として公表される預金契約または金銭の貸借契約に基づく債権の利率（以下「指標利率」といいます。）の数値を取り決め、その取り決めに係る数値と決済日における当該指標利率の現実の数値との差にあらかじめ元本として定めた金額および当事者間で約定した日数を基準とした数値を乗じた額を決済日における当該指標利率の現実の数値で決済日における現在価値に割り引いた額の金銭の授受を約する取引をいいます。
- (ヘ)為替先渡し取引とは、当事者間において、あらかじめ決済日から満期日までの期間に係る為替スワップ取引（同一の相手方との間で直物外国為替取引および当該直物外国為替取引と反対売買の関係に立つ先物外国為替取引を同時に約定する取引をいいます。以下本項において同じ。）のスワップ幅（当該直物外国為替取引に係る外国為替相場と当該先物外国為替取引に係る外国為替相場との差を示す数値をいいます。以下本項において同じ。）を取り決め、その取り決めに係るスワップ幅から決済日における当該為替スワップ取引の現実のスワップ幅を差し引いた値にあらかじめ元本として定めた金額を乗じた額を決済日における指標利率の数値で決済日における現在価値に割り引いた額の金銭またはその取り決めに係るスワップ幅から決済日における当該為替スワップ取引の現実のスワップ幅を差し引いた値にあらかじめ元本として定めた金額を乗じた金額とあらかじめ元本として定めた金額について決済日を受渡日として行なった先物外国為替取引を決済日における直物外国為替取引で反対売買したときの差金に係る決済日から満期日までの利息とを合算した額を決済日における指標利率の数値で決済日における現在価値に割り引いた額の金銭の授受を約する取引をいいます。

リ. 同一銘柄の転換社債型新株予約権付社債等への投資制限

委託会社は、取得時において信託財産に属する同一銘柄の転換社債ならびに転換社債型新株予約権付社債の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。

ヌ. 有価証券の貸付の指図および範囲

- (イ)委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債を次の各号の範囲内で貸付の指図をすることができます。
 - (a)株式の貸付は、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、信託財産で保有する株式の時価合計額の50%を超えないものとします。
 - (b)公社債の貸付は、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額の50%を超えないものとします。
- (ロ)前項各号に定める限度額を超えることとなった場合には、委託会社は、速やかにその超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。
- (ハ)委託会社は、有価証券の貸付にあたって必要と認めたときは、担保の受入れの指図を行うものとします。

ル. 公社債の空売りの指図

- (イ)委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産の計算においてする信託財産に属さない公社債を売付けることの指図をすることができます。なお、当該売付の

決済については、公社債（信託財産により借入れた公社債を含みます。）の引き渡しまたは買戻しにより行うことの指図をすることができるものとします。

- (ロ)前項の売付の指図は、当該売付にかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
- (ハ)信託財産の一部解約等の事由により、前項の売付にかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する売付の一部を決済するための指図をするものとします。

フ. 公社債の借入

- (イ)委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、公社債の借入れの指図をすることができます。なお、当該公社債の借入れを行うにあたり担保の提供が必要と認められたときは、担保の提供の指図を行うことができます。
- (ロ)前項の指図は、当該借入れにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
- (ハ)信託財産の一部解約等の事由により、前項の借入れにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する借入れた公社債の一部を返還するための指図をするものとします。
- (ニ)(イ)の借入れにかかる品借料は信託財産から支弁するものとします。

ワ. 外貨建資産への投資制限

外貨建資産への投資割合には制限を設けません。
なお、外貨建有価証券への投資については、わが国の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には制約されることがあります。

カ. 外国為替予約の指図および範囲

- (イ)委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、外国為替の売買の予約を指図することができます。
- (ロ)(イ)の予約取引の指図は、信託財産にかかる為替の買予約の合計額と売予約の合計額との差額につき円換算した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。ただし、信託財産に属する外貨建資産の為替変動リスクを回避するためにする当該予約取引の指図については、この限りではありません。
- (ハ)(ロ)の限度額を超えることとなった場合には、委託会社は所定の期間内に、その超える額に相当する為替予約の一部を解消するための外国為替の売買の予約取引の指図をするものとします。

コ. 資金の借入れ

- (イ)委託会社は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性をはかるため、一部解約に伴う支払資金手当て（一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。）を目的として、または再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。
- (ロ)一部解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却または解約代金および有価証券等の償還金の合計額を限度とします。ただし、資金の借入額は、借入指図を行う日における信託財産の純資産総額の10%の範囲内とします。

- (ハ)収益分配金の再投資にかかる借入期間は信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。
- (ニ)借入金の利息は信託財産中より支弁します。

タ. 受託会社による資金の立替

- (イ)信託財産に属する有価証券について、借替、転換、新株発行または株主割当がある場合で、委託会社の申し出があるときは、受託会社は資金の立替えをすることができます。
- (ロ)信託財産に属する有価証券にかかる償還金等、株式の清算分配金、有価証券等にかかる利子等、株式の配当金およびその他の未収入金で、信託終了日までにその金額を見積もりうるものがあるときは、受託会社がこれを立替えて信託財産に繰り入れることができます。
- (ハ)(イ)および(ロ)の立替金の決済および利息については、受託会社と委託会社との協議によりそのつど別にこれを定めます。

②法令による投資制限

デリバティブ取引等に係る投資制限（金融商品取引業等に関する内閣府令）

委託会社は、信託財産に関し、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標に係る変動その他の理由により発生し得る危険に対応する額としてあらかじめ委託会社が定めた合理的な方法により算出した額が当該信託財産の純資産総額を超えることとなる場合において、デリバティブ取引等（新株予約権証券またはオプションを表示する証券もしくは証書に係る取引および選択権付債券売買を含みます。）を行い、または継続することを受託会社に指図しないものとします。

3【投資リスク】

＜当ファンドの有するリスク＞

- ☐ 当ファンドは、債券など値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。また、外貨建資産は、為替の変動による影響も受けます。したがって、投資家の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- ☐ 信託財産に生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。
- ☐ 投資信託は預貯金と異なります。
- ☐ 当ファンドの投資目的は確実に達成されるものではなく、元本および元本からの収益を確保する保証はありません。
- ☐ 投資家の皆様におかれましては、当ファンドの内容とリスクを十分ご理解のうえお申込みくださいますよう、よろしくお願いいたします。

＜基準価額の変動要因＞

基準価額を変動させる要因として主に以下のリスクがあります。ただし、以下の説明はすべてのリスクを表したものではありません。

(1)流動性リスク

投資対象となる有価証券等の需給、市場に対する相場見通し、経済・金融情勢等の変化や、当該有価証券等が売買される市場の規模や厚み、市場参加者の差異等は、当該有価証券等の流動性に大きく影響します。当該有価証券等の流動性が低下した場合、売買が実行できなくなったり、不利な条件での売買を強いられることとなったり、デリバティブ等の決済の場合に反対売買が困難になったりする可能性があります。その結果、ファンドの基準価額が下落するおそれがあります。

(2)金利変動に伴うリスク

投資対象の債券等は、経済情勢の変化等を受けた金利水準の変動に伴い価格が変動します。通常、金利が低下すると債券価格は上昇し、金利が上昇すると債券価格は下落します。債券価格が下落した場合、ファンドの基準価額も下落するおそれがあります。また、債券の種類や特定の銘柄に関わる格付け等の違い、利払い等の仕組みの違いなどにより、価格の変動度合いが大きくなる場合と小さくなる場合があります。

☐デュレーションについて

デュレーションとは、「投資元本の平均的な回収期間」を表す指標で、単位は「年」で表示されます。また、「金利の変動に対する債券価格の変動性」の指標としても利用され、一般的にこの値が長い（大きい）ほど、金利の変動に対する債券価格の変動が大きくなります。

(3)信用リスク

投資対象となる債券等の発行体において、万一、元利金の債務不履行や支払い遅延（デフォルト）が起きると、債券価格は大幅に下落します。この場合、ファンドの基準価額が下落するおそれがあります。また、格付機関により格下げされた場合は、債券価格が下落し、ファンドの基準価額が下落するおそれがあります。

(4)外国証券投資のリスク
＜為替リスク＞

当ファンドは、外貨建資産に投資するため、為替変動のリスクが生じます。また、当ファンドは原則として対円での為替ヘッジを行いませんので、為替変動の影響を直接受けます。したがって、円高局面では、その資産価値が大きく減少する可能性があり、この場合、ファンドの基準価額が下落するおそれがあります。

＜カントリーリスク＞

投資対象となる国と地域によっては、政治・経済情勢が不安定になったり、証券取引・外国為替取引等に関する規制が変更されたりする場合があります。さらに、外国政府が資産の没収、国有化、差押えなどを行う可能性もあります。これらの場合、ファンドの基準価額が下落するおそれがあります。

＜その他の留意点＞

（１）繰上償還について

当ファンドは、信託財産の純資産総額が30億円を下回ることとなった場合等には、繰上償還されることがあります。

（２）ベンチマークに関する留意点

当ファンドは、シティグループEMU国債インデックス（円換算）をベンチマークとします。当ファンドの投資成果は、ベンチマークを上回る場合がある一方で下回る場合もあります。したがって、当ファンドはベンチマークに対して一定の成果をあげることを保証するものではありません。

（３）換金請求の受付に関する留意点

取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、ご換金の受付を中止することがあります。また、信託財産の資金管理等を円滑に行うため、大口の換金請求には制限を設ける場合があります。

（４）クーリング・オフについて

当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。

（５）法令・税制・会計等の変更可能性について

法令・税制・会計等は、変更される可能性があります。

（６）その他

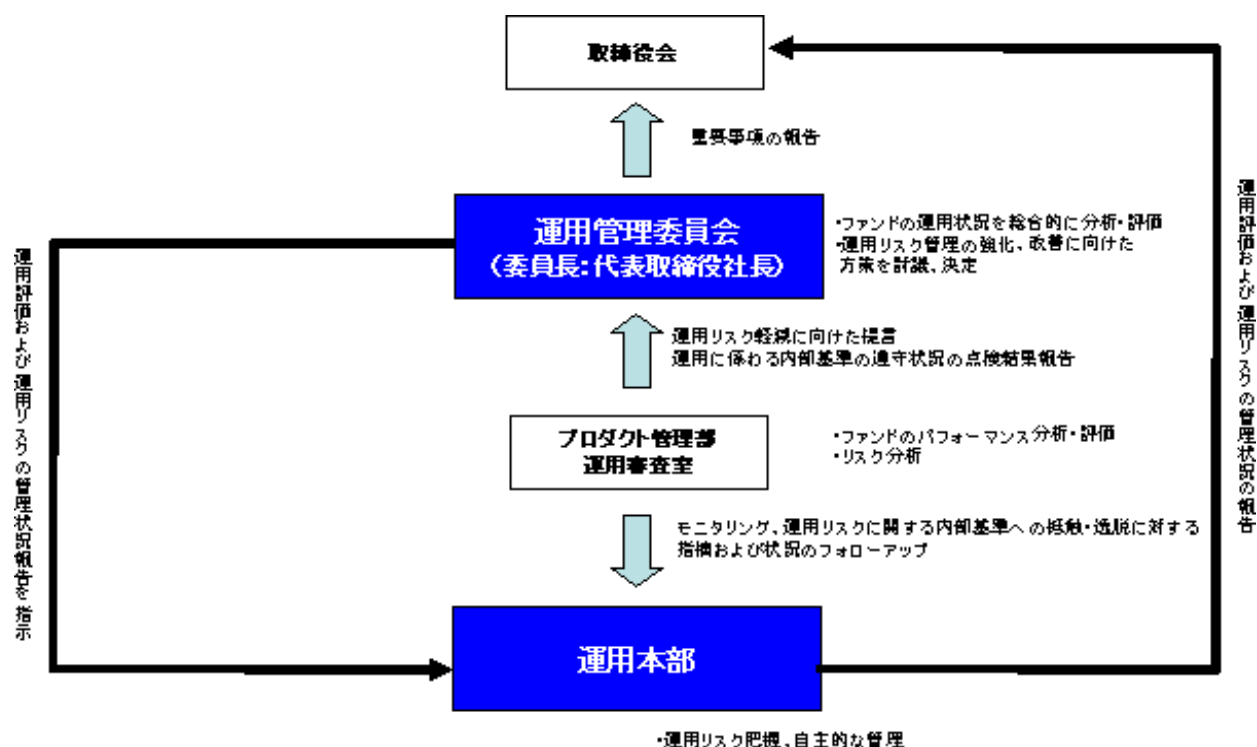
委託会社と投資顧問会社（T. ロウ・プライス・インターナショナル・リミテッド）との合意等により、運用指図に関する権限の委託を中止または委託の内容を変更することができます。

＜リスクの管理体制＞

委託会社のファンドの運用におけるリスク管理については、運用部門から独立した組織体制で行っております。

名称および人員数	内容
◆運用管理委員会 (24名程度)	ファンドの運用状況を総合的に分析・評価するとともに、運用リスク管理の強化・改善に向けた方策を討議・決定します。
◆リスク管理委員会 (20名程度)	運用リスクを除く経営リスクを適時、的確に把握し、適切な具体的措置を講じ、リスクの軽減・管理に努めます。
◆監査部 (6名程度)	取締役会直轄として、各部室の業務が適正な内部管理態勢のもと、法令等に従って行われているかを点検します。
◆コンプライアンス・オフィサー (1名)	コンプライアンスの観点から各部室の指導・監督を行うと同時に、法令等の遵守体制の維持・強化に向けた役職員の啓蒙・教化に努めます。
◆法務コンプライアンス部 (5名程度)	社内規則の制定・改廃の点検を行うほか、インサイダー情報の管理や広報内容のチェック等、法令違反等を未然に防止するために日常的な活動を行います。
◆プロダクト管理部 (10名程度)	約定内容と取引報告書を照合する等、発注業務の監視および約定価格の妥当性を点検します。
◆運用審査室 (3名程度)	ファンドのパフォーマンス分析・評価並びにリスク分析を行い、運用本部に開示するとともに、運用管理委員会を通じて、運用リスクの軽減に向けた提言を行います。
◆トレーディング部 (20名程度)	有価証券の売買発注は、トレーディング部が最良執行の観点を踏まえて行います。

※運用リスクの管理は、以下の体制で行います。



※リスクの管理体制は、今後変更になる場合があります。

4【手数料等及び税金】

(1)【申込手数料】

申込手数料は、申込価額（発行価格）に申込手数料率を乗じて得た額とします。申込手数料率は、2.1%（税抜2.0%）を上限とし、販売会社毎に定めた率とします。

ファンドの申込手数料については、お申込みの各販売会社までお問い合わせください。

※申込手数料には、消費税等相当額がかかります。

※分配金再投資コースにおいて収益分配金を再投資する場合は、手数料はかかりません。

(2)【換金（解約）手数料】

ありません。

(3)【信託報酬等】

委託会社および受託会社の信託報酬の総額は、計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に年率1.3125%（税抜1.25%）を乗じて得た金額とします。委託会社は販売会社に対して、販売会社の行う業務に対する代行手数料を支払います。委託会社、販売会社および受託会社との間の配分は以下の表のとおりです。

委託会社	販売会社	受託会社
年率0.63% (税抜0.60%)	年率0.63% (税抜0.60%)	年率0.0525% (税抜0.05%)

①信託報酬は、毎計算期末または信託終了のときに、信託財産中から支弁するものとします。

②信託報酬にかかる消費税等相当額を信託報酬支弁のときに信託財産中から支弁します（税額は、税法改正時には変更となります。）。

③信託報酬の販売会社への配分は、委託会社が一旦信託財産から収受した後、各販売会社毎の取扱残高に応じて支払います。委託会社は、信託報酬を収受したときは、販売会社に対して代行手数料を遅滞なく支払うものとします。なお、販売会社への配分には、消費税等相当額がかかります。

④委託会社の報酬には、T. ロウ・プライス・インターナショナル・リミテッドへの投資顧問報酬が含まれます。なお、投資顧問報酬の額は、信託財産の純資産総額に年率0.348%を乗じて得た金額とし、委託会社が報酬を受取った後、当該報酬から支弁するものとします。

(4)【その他の手数料等】

①組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料は、信託財産が負担します。この他に、売買委託手数料に対する消費税等相当額および先物取引・オプション取引・コール取引等に要する費用および外国における資産の保管等に要する費用についても信託財産が負担します。信託財産の証券取引等に伴う手数料や税金は信託財産が負担しますが、売買委託手数料等の証券取引に伴う手数料等は国や市場によって異なります。また、売買金額によっても異なります。

※有価証券の売買委託手数料、外国における資産の保管等に要する費用などについては、取引または請求のつど、信託財産で負担することになります。これらの費用は、事前に計算できないため、その総額や計算方法等を具体的に記載しておりません。

②信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸経費、受託会社の立替えた立替金の利息および信託財産にかかる監査報酬ならびに当該監査報酬にかかる消費税等相当額は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。

③信託財産の財務諸表の監査に要する費用は、計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に対し年率0.0105%（税抜0.0100%）以内の率を乗じて得た額とし、各特定期末または信託終了時に信託財産中から支弁します。また、委託会社は信託財産の規模等を考慮してその率または金額を変更することができます。

④信託財産留保額はありません。

（５）【課税上の取扱い】

当ファンドは、課税上は株式投資信託として取扱われます。

受益者に対する課税については、以下のような取扱いとなります。なお、税法等が改正された場合は、以下の内容が変更になることがあります。

①個人の受益者に対する課税

・収益分配金の課税

収益分配金のうち課税対象となる普通分配金については、配当所得として下記の税率[※]で源泉徴収され確定申告不要となります。なお、確定申告を行い、申告分離課税または総合課税（当ファンドは、配当控除の適用がありません。）を選択することができます。

・解約時および償還時の課税

譲渡益（解約価額および償還価額から取得費（申込手数料および申込手数料にかかる消費税等相当額等を含みます。）を控除した利益をいいます。）については、譲渡所得として下記の税率[※]が適用され、申告分離課税となります。なお、源泉徴収選択口座を選択した場合には、原則として確定申告不要となります。

※税率は、以下の各期間について次のとおりです。なお、平成25年12月31日までは軽減税率が適用されます。また、所得税については、平成25年1月1日から平成49年12月31日までの間、基準所得税額に対して2.1%の税率で復興特別所得税が付加されます。

期間	税率
平成25年12月31日まで	10.147%（所得税7%、復興特別所得税0.147%および地方税3%）
平成26年1月1日以降 平成49年12月31日まで	20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）
平成50年1月1日以降	20%（所得税15%および地方税5%）

<損益通算について>

解約時および償還時の譲渡損失（または譲渡益）については、上場株式等の譲渡益（または譲渡損失）との相殺が可能です。当該相殺後の譲渡損失については、確定申告により、申告分離課税を選択した場合の上場株式等の配当所得との損益通算が可能です。

また、源泉徴収選択口座内においても、解約時および償還時の譲渡損失（または譲渡益）については、上場株式等の譲渡益（または譲渡損失）と相殺され、当該相殺後の譲渡損失については、上場株式等の配当所得との損益通算が可能です。

<少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」について>

公募株式投資信託は税法上、平成26年1月1日以降の少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」の適用対象です。NISAをご利用の場合、毎年、年間100万円の範囲で新た

に購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得及び譲渡所得が5年間非課税となります。ご利用になれるのは、満20歳以上の方で、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

②法人の受益者に対する課税

収益分配金のうち課税対象となる普通分配金ならびに解約時および償還時の個別元本超過額に対しては、下記の税率[※]で源泉徴収されます。

※税率は、以下の各期間について次のとおりです。なお、平成25年12月31日までは軽減税率が適用されます。また、所得税については、平成25年1月1日から平成49年12月31日までの間、基準所得税額に対して2.1%の税率で復興特別所得税が付加されます。

期間	税率
平成25年12月31日まで	7.147%（所得税7%、復興特別所得税0.147%）
平成26年1月1日以降 平成49年12月31日まで	15.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%）
平成50年1月1日以降	15%（所得税15%）

＜益金不算入制度について＞

当ファンドは、益金不算入制度の適用はありません。

（参考）

＜個別元本について＞

・追加型証券投資信託を保有する受益者毎の取得元本（申込手数料および申込手数料にかかる消費税等相当額は含まれません。）が個別元本にあたります。

・受益者が同一ファンドを複数回取得した場合、個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。

・同一ファンドを複数の販売会社で取得する場合については販売会社毎に、個別元本の算出が行われる場合があります。また、同一販売会社であっても複数支店等で同一ファンドを取得する場合は当該支店毎に、「分配金支払いコース」と「分配金再投資コース」の両コースで取得する場合にはコース別に、個別元本の算出が行われる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

・受益者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個

別元本となります（「元本払戻金（特別分配金）」については、下記の＜収益分配金の課税について＞を参照）。

＜収益分配金の課税について＞

収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」（受益者毎の元本の一部払戻しに相当する部分）の区別があります。

受益者が収益分配金を受け取る際、①当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額または当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となり、②当該収益分配金落ち後の基準価額が個別元本を下回っている場合は、その下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、当該収益分配金から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が普通分配金となります。

＊上記の内容は、税法等が変更・改正された場合には、変更になることがあります。

＊課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

5【運用状況】

(1)【投資状況】

（平成25年6月末現在）

毎月分配　ハイクオリティ・ユーロ債券ファンド			
投資資産の種類	国・地域名	時価合計（円）	投資比率
国債証券	イタリア	205,976,319	19.89%
	ドイツ	175,287,214	16.92%
	フランス	138,640,241	13.39%
	スペイン	102,487,169	9.90%
	オーストリア	67,019,048	6.47%
	オランダ	55,710,370	5.38%
	ベルギー	43,326,658	4.18%
	ノルウェー	20,721,982	2.00%
	フィンランド	14,894,075	1.44%
	スウェーデン	12,849,786	1.24%
	チェコ	11,817,896	1.14%
	ポーランド	8,947,178	0.86%
社債券	イギリス	36,424,309	3.52%
	オランダ	13,957,900	1.35%
	イタリア	13,870,250	1.34%
	スペイン	13,238,590	1.28%
	アメリカ	12,292,416	1.19%
	フランス	11,400,803	1.10%
	韓国	8,630,635	0.83%
	アイルランド	7,516,241	0.73%
	カナダ	7,451,205	0.72%
	ケイマン諸島	7,078,468	0.68%
	ドイツ	3,288,504	0.32%
	ベルギー	2,581,910	0.25%
	オーストラリア	1,673,105	0.16%
純資産総額		1,035,689,176	—

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(2)【投資資産】

①【投資有価証券の主要銘柄】

（平成25年6月末現在）

イ．主要銘柄の明細

毎月分配　ハイクオリティ・ユーロ債券ファンド

	銘柄名 国・地域	種類 業種	株数、口数 又は額面金額	簿価単価(円) 簿価(円)	評価単価(円) 時価(円)	利率(%) 償還期限	投資 比率
1	BUONI POLIENNALI DEL TES イタリア	国債証券 —	471,000	12,572.80 59,217,909	12,669.20 59,671,941	3.7500 2021/03/01	5.76%
2	FRANCE O.A.T. フランス	国債証券 —	328,000	17,719.53 58,120,062	17,829.81 58,481,777	5.7500 2032/10/25	5.65%
3	BUONI POLIENNALI DEL TES イタリア	国債証券 —	409,000	12,682.05 51,869,605	12,796.44 52,337,467	5.0000 2040/09/01	5.05%
4	FRANCE OAT. フランス	国債証券 —	286,000	14,775.68 42,258,445	14,815.91 42,373,503	4.2500 2018/10/25	4.09%
5	BUNDESOBLIGATION ドイツ	国債証券 —	301,000	13,216.48 39,781,613	13,224.45 39,805,599	1.2500 2016/10/14	3.84%
6	BONOS Y OBLIG DEL ESTADO スペイン	国債証券 —	302,000	13,062.50 39,448,761	13,166.61 39,763,171	4.1000 2018/07/30	3.84%
7	BONOS Y OBLIG DEL ESTADO スペイン	国債証券 —	259,000	13,719.29 35,532,966	13,782.27 35,696,084	5.7500 2032/07/30	3.45%
8	FRANCE OAT. フランス	国債証券 —	228,000	14,557.43 33,190,954	14,615.40 33,323,119	3.7500 2021/04/25	3.22%
9	BUNDESOBLIGATION ドイツ	国債証券 —	245,000	13,437.55 32,922,008	13,441.41 32,931,455	2.0000 2016/02/26	3.18%
10	BUNDESREPUB. DEUTSCHLAND ドイツ	国債証券 —	246,000	13,018.80 32,026,257	13,059.93 32,127,435	1.7500 2022/07/04	3.10%
11	BUONI POLIENNALI DEL TES イタリア	国債証券 —	196,000	13,554.51 26,566,852	13,635.74 26,726,065	4.7500 2016/09/15	2.58%
12	REPUBLIC OF AUSTRIA オーストリア	国債証券 —	139,000	18,522.07 25,745,681	18,603.68 25,859,128	6.2500 2027/07/15	2.50%
13	BUONI POLIENNALI DEL TES イタリア	国債証券 —	188,000	13,210.95 24,836,597	13,237.17 24,885,891	4.2500 2014/08/01	2.40%
14	NETHERLANDS GOVERNMENT オランダ	国債証券 —	179,000	13,329.84 23,860,424	13,337.55 23,874,228	3.7500 2014/07/15	2.31%
15	BUONI POLIENNALI DEL TES イタリア	国債証券 —	154,000	14,347.80 22,095,618	14,453.19 22,257,925	6.0000 2031/05/01	2.15%
16	NORWEGIAN T-BILL ノルウェー	国債証券 —	1,278,000	1,622.30 20,733,043	1,621.43 20,721,982	— 2013/12/18	2.00%
17	BELGIUM KINGDOM ベルギー	国債証券 —	142,000	14,368.24 20,402,901	14,426.07 20,485,031	4.0000 2018/03/28	1.98%
18	BELGIUM KINGDOM ベルギー	国債証券 —	127,000	15,917.79 20,215,603	16,065.22 20,402,831	5.0000 2035/03/28	1.97%
19	BUONI POLIENNALI DEL TES イタリア	国債証券 —	149,000	13,383.82 19,941,905	13,487.93 20,097,027	4.5000 2018/02/01	1.94%
20	BUNDESREPUB. DEUTSCHLAND ドイツ	国債証券 —	129,000	14,449.34 18,639,651	14,478.90 18,677,786	3.0000 2020/07/04	1.80%
21	BUNDESREPUB. DEUTSCHLAND ドイツ	国債証券 —	124,000	15,039.68 18,649,204	15,056.38 18,669,923	4.2500 2018/07/04	1.80%
22	BONOS Y OBLIG DEL ESTADO スペイン	国債証券 —	129,000	13,328.68 17,194,009	13,345.26 17,215,398	4.4000 2015/01/31	1.66%
23	FINNISH GOVERNMENT フィンランド	国債証券 —	103,000	14,415.28 14,847,740	14,460.26 14,894,075	3.3750 2020/04/15	1.44%
24	NETHERLANDS GOVERNMENT オランダ	国債証券 —	83,000	17,612.46 14,618,346	17,702.43 14,693,022	5.5000 2028/01/15	1.42%
25	REPUBLIC OF AUSTRIA オーストリア	国債証券 —	97,000	14,485.97 14,051,394	14,543.81 14,107,497	3.5000 2021/09/15	1.36%
26	REPUBLIC OF AUSTRIA オーストリア	国債証券 —	102,000	13,673.02 13,946,481	13,677.51 13,951,070	3.5000 2015/07/15	1.35%
27	BANCO BILBAO VIZCAYA ARG スペイン	社債券 —	100,000	13,197.46 13,197,460	13,238.59 13,238,590	3.5000 2017/12/05	1.28%
28	KINGDOM OF SWEDEN スウェーデン	国債証券 —	100,000	12,828.57 12,828,579	12,849.78 12,849,786	0.8750 2018/01/31	1.24%
29	CZECH REPUBLIC チェコ	国債証券 —	82,000	14,369.65 11,783,116	14,412.06 11,817,896	3.8750 2022/05/24	1.14%
30	NETHERLANDS GOVERNMENT オランダ	国債証券 —	81,000	13,355.55 10,817,997	13,361.33 10,822,682	2.7500 2015/01/15	1.04%

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

ロ. 投資有価証券の種類別投資比率

毎月分配 ハイクオリティ・ユーロ債券ファンド

種類別	投資比率
国債証券	82.81%
社債券	13.46%
合計	96.27%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類の時価の比率です。

ハ. 投資株式の業種別投資比率

毎月分配 ハイクオリティ・ユーロ債券ファンド
該当事項はありません。

②【投資不動産物件】

(平成25年6月末現在)

毎月分配 ハイクオリティ・ユーロ債券ファンド

該当事項はありません。

③【その他投資資産の主要なもの】

(平成25年6月末現在)

毎月分配 ハイクオリティ・ユーロ債券ファンド

該当事項はありません。

(3)【運用実績】

①【純資産の推移】

毎月分配 ハイコオリティ・ユーロ債券ファンド

	純資産総額（百万円）		1口当りの純資産額（円）	
	（分配落）	（分配付）	（分配落）	（分配付）
第3特定期間末 （平成15年11月27日）	4,671	4,805	1.1398	1.1698
第4特定期間末 （平成16年5月27日）	4,264	4,377	1.1804	1.2104
第5特定期間末 （平成16年11月29日）	4,293	4,400	1.2114	1.2414
第6特定期間末 （平成17年5月27日）	4,073	4,177	1.2124	1.2424
第7特定期間末 （平成17年11月28日）	3,803	3,899	1.2288	1.2588
第8特定期間末 （平成18年5月29日）	3,433	3,521	1.2042	1.2342
第9特定期間末 （平成18年11月27日）	3,629	3,715	1.2778	1.3078
第10特定期間末 （平成19年5月28日）	4,181	4,272	1.3129	1.3429
第11特定期間末 （平成19年11月27日）	4,133	4,229	1.2830	1.3130
第12特定期間末 （平成20年5月27日）	4,634	4,736	1.2763	1.3063
第13特定期間末 （平成20年11月27日）	3,186	3,290	0.9836	1.0136
第14特定期間末 （平成21年5月27日）	3,174	3,264	1.0472	1.0772
第15特定期間末 （平成21年11月27日）	3,091	3,181	1.0354	1.0654
第16特定期間末 （平成22年5月27日）	2,484	2,572	0.8646	0.8946
第17特定期間末 （平成22年11月29日）	2,249	2,333	0.8353	0.8653
第18特定期間末 （平成23年5月27日）	2,137	2,216	0.8280	0.8580
第19特定期間末 （平成23年11月28日）	1,469	1,541	0.6892	0.7192
第20特定期間末 （平成24年5月28日）	1,042	1,093	0.6986	0.7286
平成24年7月末日	966	—	0.6641	—
平成24年8月末日	962	—	0.6818	—
平成24年9月末日	969	—	0.6953	—
平成24年10月末日	991	—	0.7170	—
第21特定期間末 （平成24年11月27日）	995	1,037	0.7393	0.7693
平成24年11月末日	1,004	—	0.7452	—
平成24年12月末日	1,051	—	0.8032	—
平成25年1月末日	1,081	—	0.8539	—
平成25年2月末日	1,052	—	0.8352	—
平成25年3月末日	1,033	—	0.8307	—
平成25年4月末日	1,093	—	0.8974	—
第22特定期間末 （平成25年5月27日）	1,094	1,131	0.9010	0.9310
平成25年5月末日	1,099	—	0.9090	—
平成25年6月末日	1,035	—	0.8634	—

（注）純資産総額は百万円未満切捨てで表記しております。

②【分配の推移】

毎月分配 ハイクオリティ・ユーロ債券ファンド

期間	1口当りの分配金（円）
第3特定期間（平成15年5月28日～平成15年11月27日）	0.0300
第4特定期間（平成15年11月28日～平成16年5月27日）	0.0300
第5特定期間（平成16年5月28日～平成16年11月29日）	0.0300
第6特定期間（平成16年11月30日～平成17年5月27日）	0.0300
第7特定期間（平成17年5月28日～平成17年11月28日）	0.0300
第8特定期間（平成17年11月29日～平成18年5月29日）	0.0300
第9特定期間（平成18年5月30日～平成18年11月27日）	0.0300
第10特定期間（平成18年11月28日～平成19年5月28日）	0.0300
第11特定期間（平成19年5月29日～平成19年11月27日）	0.0300
第12特定期間（平成19年11月28日～平成20年5月27日）	0.0300
第13特定期間（平成20年5月28日～平成20年11月27日）	0.0300
第14特定期間（平成20年11月28日～平成21年5月27日）	0.0300
第15特定期間（平成21年5月28日～平成21年11月27日）	0.0300
第16特定期間（平成21年11月28日～平成22年5月27日）	0.0300
第17特定期間（平成22年5月28日～平成22年11月29日）	0.0300
第18特定期間（平成22年11月30日～平成23年5月27日）	0.0300
第19特定期間（平成23年5月28日～平成23年11月28日）	0.0300
第20特定期間（平成23年11月29日～平成24年5月28日）	0.0300
第21特定期間（平成24年5月29日～平成24年11月27日）	0.0300
第22特定期間（平成24年11月28日～平成25年5月27日）	0.0300

③【収益率の推移】

毎月分配 ハイクオリティ・ユーロ債券ファンド

期間	収益率
第3特定期間（平成15年5月28日～平成15年11月27日）	△8.5%
第4特定期間（平成15年11月28日～平成16年5月27日）	6.2%
第5特定期間（平成16年5月28日～平成16年11月29日）	5.2%
第6特定期間（平成16年11月30日～平成17年5月27日）	2.6%
第7特定期間（平成17年5月28日～平成17年11月28日）	3.8%
第8特定期間（平成17年11月29日～平成18年5月29日）	0.4%
第9特定期間（平成18年5月30日～平成18年11月27日）	8.6%
第10特定期間（平成18年11月28日～平成19年5月28日）	5.1%
第11特定期間（平成19年5月29日～平成19年11月27日）	0.0%
第12特定期間（平成19年11月28日～平成20年5月27日）	1.8%
第13特定期間（平成20年5月28日～平成20年11月27日）	△20.6%
第14特定期間（平成20年11月28日～平成21年5月27日）	9.5%
第15特定期間（平成21年5月28日～平成21年11月27日）	1.7%
第16特定期間（平成21年11月28日～平成22年5月27日）	△13.6%
第17特定期間（平成22年5月28日～平成22年11月29日）	0.1%
第18特定期間（平成22年11月30日～平成23年5月27日）	2.7%
第19特定期間（平成23年5月28日～平成23年11月28日）	△13.1%
第20特定期間（平成23年11月29日～平成24年5月28日）	5.7%
第21特定期間（平成24年5月29日～平成24年11月27日）	10.1%
第22特定期間（平成24年11月28日～平成25年5月27日）	25.9%

（注）収益率＝（当特定期末分配付基準価額－前特定期末分配落基準価額）÷前特定期末分配落基準価額×100

(4) 【設定及び解約の実績】

毎月分配 ハイクオリティ・ユーロ債券ファンド		
期間	設定総額 (円)	解約総額 (円)
第3特定期間（平成15年5月28日～平成15年11月27日）	377,456,015	1,659,490,578
第4特定期間（平成15年11月28日～平成16年5月27日）	162,217,813	648,211,359
第5特定期間（平成16年5月28日～平成16年11月29日）	98,134,282	166,585,644
第6特定期間（平成16年11月30日～平成17年5月27日）	78,089,407	262,558,539
第7特定期間（平成17年5月28日～平成17年11月28日）	47,390,745	311,932,669
第8特定期間（平成17年11月29日～平成18年5月29日）	28,000,590	272,447,481
第9特定期間（平成18年5月30日～平成18年11月27日）	156,533,513	167,066,627
第10特定期間（平成18年11月28日～平成19年5月28日）	474,814,622	130,276,454
第11特定期間（平成19年5月29日～平成19年11月27日）	220,589,722	183,783,585
第12特定期間（平成19年11月28日～平成20年5月27日）	590,649,430	181,394,441
第13特定期間（平成20年5月28日～平成20年11月27日）	352,886,995	744,048,207
第14特定期間（平成20年11月28日～平成21年5月27日）	313,411,494	521,634,035
第15特定期間（平成21年5月28日～平成21年11月27日）	139,496,283	185,782,303
第16特定期間（平成21年11月28日～平成22年5月27日）	163,856,942	275,857,099
第17特定期間（平成22年5月28日～平成22年11月29日）	84,920,630	265,014,293
第18特定期間（平成22年11月30日～平成23年5月27日）	149,107,207	261,233,116
第19特定期間（平成23年5月28日～平成23年11月28日）	57,627,863	506,478,225
第20特定期間（平成23年11月29日～平成24年5月28日）	30,136,320	670,352,585
第21特定期間（平成24年5月29日～平成24年11月27日）	27,440,931	173,462,222
第22特定期間（平成24年11月28日～平成25年5月27日）	49,510,027	181,140,465

（注）本邦外における設定及び解約の実績はありません。

(参考情報)

2013年6月28日現在

基準価額・純資産の推移（2003年6月30日～2013年6月28日）



分配の推移

2013年 6月	50円
2013年 5月	50円
2013年 4月	50円
2013年 3月	50円
2013年 2月	50円
直近1年間累計	600円
設定来累計	6,425円

* 分配金は1万口当たり、税引前

主要な資産の状況

上位10銘柄

	投資銘柄	種別	投資比率
1	BUONI POLIENNALI DEL TES 3.75 03/01/21	国債証券	5.8%
2	FRANCE O.A.T. 5.75 10/25/32	国債証券	5.6%
3	BUONI POLIENNALI DEL TES 5 09/01/40	国債証券	5.1%
4	FRANCE OAT. 4.25 10/25/18	国債証券	4.1%
5	BUNDES OBLIGATION 1.25 10/14/16	国債証券	3.8%
6	BONOS Y OBLIG DEL ESTADO 4.1 07/30/18	国債証券	3.8%
7	BONOS Y OBLIG DEL ESTADO 5.75 07/30/32	国債証券	3.4%
8	FRANCE OAT. 3.75 04/25/21	国債証券	3.2%
9	BUNDES OBLIGATION 2 02/26/16	国債証券	3.2%
10	BUNDESREPUB. DEUTSCHLAND 1.75 07/04/22	国債証券	3.1%

* 投資比率は全て純資産総額対比

債券種別構成

種別	投資比率
国債証券	82.8%
社債券	13.5%

年間収益率の推移



* ファンドの収益率は暦年ベースで表示しております。但し、2013年は6月末までの収益率です。

* ファンドの年間収益率は、税引前の分配金を再投資したものと計算しております。

- ・ファンドの運用実績はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を約束するものではありません。
- ・ファンドの運用状況は別途、委託会社のホームページで開示している場合があります。

第2【管理及び運営】

1【申込（販売）手続等】

- (1) 当ファンドの取得申込者は、販売会社において、申込期間における毎営業日にお申込みいただけます。ただし、英国証券取引所またはロンドンの銀行の休業日と同日の場合には、取得のお申込みを受付けないものとします。お申込みの受付は原則として午後3時までとします。これらの受付時間を過ぎてからのお申込みは翌営業日以降で、英国証券取引所またはロンドンの銀行の休業日と同日でない最も近い営業日の取扱いとします。
- (2) 申込価額は、取得申込受付日の翌営業日の基準価額とします（当初1口＝1円）。お申込みには申込手数料および申込手数料にかかる消費税等相当額を要します。また、当ファンドの申込単位は1口または1円の整数倍で販売会社毎に定めた単位とします。
- (3) 当ファンドの取得申込者は、販売会社において、取引口座を開設のうえ、取得のお申込みを行うものとします。お申込みの方法には、収益の分配がなされた場合に分配金を受取ることができる「分配金支払いコース」と、税引後の分配金を自動的に無手数料で再投資する「分配金再投資コース」があり、「分配金再投資コース」を取得申込者が選択した場合には、取得申込者は販売会社との間で累積投資約款に従って分配金再投資に関する契約を締結します。ただし、販売会社によってはどちらか一方のコースのみの取扱いの場合があります。
- ＊販売会社によっては、当該契約または規定について、同様の権利義務関係を規定する名称の異なる契約または規定を使用することがあり、この場合、当該別の名称に読み替えるものとします。
- (4) 定時定額で購入する「定時定額購入サービス」（販売会社によっては、名称が異なる場合があります。）を利用する場合は、販売会社との間で「定時定額購入サービス」に関する契約を締結します。詳細については、販売会社にお問い合わせください。

（注）当ファンドの取得申込者は販売会社に、取得申込みと同時にまたは予め、自己のために開設されたファンドの受益権の振替を行うための振替機関等の口座を示すものとし、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録が行われます。なお、販売会社は、当該取得申込みの代金の支払いと引き換えに、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録を行うことができます。委託会社は、追加信託により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関への通知を行うものとします。振替機関等は、委託会社から振替機関への通知があった場合、社振法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行います。受託会社は、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権に係る信託を設定した旨の通知を行います。

2【換金（解約）手続等】

受益者は、販売会社に対して毎営業日に解約のお申込みをすることができます。ただし、英国証券取引所またはロンドンの銀行の休業日と同日の場合は、解約請求を受付けないものとします。解約の受付は原則として午後3時までとします。これらの受付時間を過ぎてからの解約請求は翌営業日以降で、英国証券取引所またはロンドンの銀行の休業日と同日でない最も近い営業日の取扱いとします。

委託会社は、取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、解約請求の受付を中止することがあります。その場合、受益者は解約の受付中止以前に行った当日の解約請求を撤回できます。ただし、受益者がその解約請求を撤回しない場合には、解約の受付の中止を解除した後の最初の基準価額の計算日にその請求を受付けたものとして取扱うこととします。また、信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の解約請求には制限を設ける場合があります。

＜解約請求による換金手続き＞

- ☐ 解約価額：当該請求受付日の翌営業日の基準価額です。
（解約価額については、お申込みの各販売会社までお問い合わせください。）
- ☐ 解約単位：販売会社毎に定めた単位とします。
（解約単位については、お申込みの各販売会社までお問い合わせください。）
- ☐ 解約代金の支払い：原則として解約請求を受付けた日から起算して5営業日目から販売会社の申込場所で支払われます。
- ☐ 解約にかかる手数料：ありません。

（注）当ファンドの換金請求を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求に係るこの信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引き換えに、当該一部解約に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。
換金請求を受益者がするときは、振替受益権をもって行うものとします。
受益証券をお手許で保有されている方は、換金のお申込みに際して、個別に振替受益権とするための所要の手続きが必要であり、この手続きには時間を要しますので、ご注意ください。

3【資産管理等の概要】

（1）【資産の評価】

①基準価額とは、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券および借入有価証券を除きます。）を法令および一般社団法人投資信託協会規則に従って時価評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額（以下「純資産総額」といいます。）を、計算日における受益権総口数で除した金額をいいます。なお、外貨建資産（外国通貨表示の有価証券（以下「外貨建有価証券」といいます。）、預金その他の資産をいいます。以下同じ。）の円換算については、原則としてわが国における計算日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算します。外国為替予約の評価は、原則として、わが国における計算日の対顧客先物売買相場の仲値によるものとします。

＜主要投資対象の評価方法＞

有価証券等	評価方法
公社債等	原則として、基準価額計算日[※]における以下のいずれかの価額で評価します。 ・日本証券業協会発表の売買参考統計値（平均値） ・金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（売気配相場を除く。） ・価格情報会社の提供する価額 ※残存期間が1年以内の公社債については、一部償却原価法により評価することができます。 ※外国で取引される資産については、原則として基準価額計算日の前日とします。

- ②基準価額は、便宜上1万口当りに換算した価額で表示されます。原則として委託会社の各営業日に計算され、翌日の日本経済新聞に掲載されます。また、お申込みの各販売会社または下記の照会先まで問い合わせることにより知ることができます。

大和住銀投信投資顧問株式会社

<インターネットホームページ><http://www.daiwasbi.co.jp/>

<お電話によるお問い合わせ先>受付窓口：（電話番号）0120-286104

受付時間：午前9時から午後5時まで（土、日、祝日除く。）

（2）【保管】

ファンドの受益権の帰属は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定まり、受益証券を発行しませんので、受益証券の保管に関する該当事項はありません。

（3）【信託期間】

当ファンドの信託の期間は、信託契約締結日（平成14年6月7日）から平成29年5月29日まで（約15年）とします。

なお、信託期間満了前に、信託期間の延長が受益者に有利であると認めたときは、受託会社と協議の上、信託期間を延長することができます。

ただし、信託期間の終了前に信託財産の純資産総額が30億円を下回ることとなった場合、あるいは信託期間終了前にこの信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、信託契約の解約の規定にしたがい、信託契約を解約し、この信託を終了させることができます（後記「（5）その他 ①信託契約の解約」をご参照ください。）。

（4）【計算期間】

当ファンドの計算期間は、原則として毎月28日から翌月27日までとします。前記にかかわらず各計算期間終了日に該当する日（以下、「該当日」といいます。）が休業日のとき、各計算期間終了日は、該当日以降最初の営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。ただし、最終計算期間の終了日は信託期間の終了日とします。

（注）計算期間終了日を「決算日」ということがあります。

（5）【その他】

①信託契約の解約

イ. 委託会社は、信託契約の一部を解約することにより、信託財産の純資産総額が30億円を下回ることとなった場合には、受託会社と合意のうえ、あらかじめ、監督官庁に届け出ることにより、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。

ロ. 委託会社は、信託期間終了前にこの信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁へ届け出ます。

ハ. 信託契約を解約し信託を終了させる場合、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を公告し、かつその旨を記載した書面をこの信託契約にかかる知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託契約にかかる全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として公告を行いません。

ニ. 前ハ. の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は、1月を下らないものとします。また、信託契約の解約を行う場合において、一定の期間内に委託会社に対して異議を述べた受益者は、法令に基づき、受託会社に対し、自己に帰属する受益権を、信託財産をもって買取るべき旨を請求することができます。

ホ. 前ニ. の一定の期間内に異議を申し出た受益者の受益権の口数が受益権の総口数の2分

の1を超えるときは、前イ、および前ロ、の信託契約の解約をしません。

- ヘ、委託会社は、この信託契約の解約をしないこととしたときは、解約しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
- ト、前ニ、から前ヘ、までの規定は、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、前ニ、の一定の期間が1月を下らずにその公告および書面の交付を行うことが困難な場合には適用しません。
- チ、信託契約の解約時の償還価額は、信託終了時における信託財産の純資産総額を受益権総口数で除した額となります。償還金は、信託終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日から、信託終了日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（信託終了日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該信託終了日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者としします。）に支払います。なお、当該受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して委託会社がこの信託の償還をするのと引換えに、当該償還に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。また、受益証券を保有している受益者に対しては、償還金は、信託終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日から受益証券と引換えに当該受益者に支払います。受益者が償還金の支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、時効によりその権利を失います。

②信託契約に関する監督官庁の命令

委託会社は、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、信託契約を解約し信託を終了させます。また、委託会社は、監督官庁の命令に基づいてこの信託約款を変更しようとするときは、信託約款の変更の規定にしたがいます。

③委託会社の登録取消等に伴う取扱い

委託会社が監督官庁より登録の取消しを受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託会社は、この信託契約を解約し信託を終了させるものとします。

ただし、監督官庁がこの信託契約に関する委託会社の業務を他の投資信託委託会社に引き継ぐことを命じたときは、この信託は、当該約款変更について異議を申し出た受益者の受益権の口数が受益権の総口数の2分の1を超える場合を除き、当該投資信託委託会社と受託会社との間において存続します。

④受託会社の辞任および解任に伴う取扱い

受託会社は、委託会社の承諾を受けてその任務を辞任することができます。受託会社がその任務に背いた場合、その他重要な事由が生じたときは、委託会社または受益者は、裁判所に受託会社の解任を請求することができます。受託会社が辞任した場合、または裁判所が受託会社を解任した場合、委託会社は、信託約款の変更の規定にしたがい、新受託会社を選任します。委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社はこの信託契約を解約し、信託を終了させます。

⑤信託約款の変更

- イ、委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託約款を変更できるものとし、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。委託会社は、信託約款の変更事項

のうち、その内容が重大なものについて、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を公告し、かつ、当ファンドの信託約款にかかる知られたる受益者に対してこれらの事項を記載した書面を交付します。ただし、当ファンドの信託約款にかかる全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として公告を行いません。

- ロ. 前イ. の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は、1月を下らないものとします。また、信託約款の変更を行う場合において、一定の期間内に委託会社に対して異議を述べた受益者は、法令に基づき、受託会社に対し、自己に帰属する受益権を、信託財産をもって買取るべき旨を請求することができます。
- ハ. 前ロ. の一定の期間内に異議を申し出た受益者の受益権の口数が受益権の総口数の2分の1を超えるときは、前イ. の信託約款の変更をしません。
- ニ. 委託会社は、この信託約款の変更をしないこととしたときは、変更しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

⑥公告

委託会社が受益者に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。

⑦反対者の買取請求権

信託契約の解約または信託約款の変更を行う場合において、一定の期間内に委託会社に対して異議を述べた受益者は、法令に基づき、受託会社に対し、自己に帰属する受益権を、信託財産をもって買取るべき旨を請求することができます。

⑧運用にかかる報告等開示方法

委託会社は、特定期末（毎年5月、11月に属する計算期末）から3ヵ月以内に有価証券報告書を提出します。また、委託会社は特定期末に運用報告書を作成し、販売会社を通じて受益者へ交付します。

⑨委託会社と関係法人との契約の変更

イ. 募集・販売契約

委託会社と販売会社との間の募集・販売の取扱い等に関する契約は、当事者の別段の意思表示のない限り、1年毎に自動的に更新されます。募集・販売の取扱い等に関する契約は、当事者間の合意により変更することができます。

ロ. 運用委託契約

委託会社とT. ロウ・プライス・インターナショナル・リミテッドとの間の運用委託契約には期限の定めがありません。運用委託契約は、当事者間の合意により変更することができます。

4【受益者の権利等】

当ファンドの受益権は、その取得申込口数に応じて、取得申込者に帰属します。この受益権は、信託の日時を異にすることにより差異を生ずることはありません。受益者の有する主な権利は次のとおりです。なお、信託約款には受益者集会に関する規定はありません。また、ファンド資産に生じた利益および損失は、全て受益者に帰属します。

(1)収益分配金に対する請求権

受益者は、収益分配金を持分にに応じて委託会社に請求する権利を有します。

収益分配金は、毎計算期間終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日から保有口数に応じて、販売会社を通じて決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる計算期間の末日以前に設定された受益権で取得申込代

金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とし、）に支払われます。なお、信託約款に規定する時効前の収益分配金にかかる収益分配金交付票は、なおその効力を有するものとし、当該収益分配金交付票と引き換えに受益者に支払います。

※収益分配金の支払いは、原則として決算日から起算して5営業日までに開始します。

上記にかかわらず、販売会社との間で締結した累積投資約款に基づく契約により収益分配金を再投資する受益者に対しては、委託会社は毎計算期間終了日の翌営業日に、収益分配金を販売会社に交付します。この場合、販売会社は受益者に対し遅滞なく収益分配金の再投資にかかる受益権の売付を行います。当該売付けにより増加した受益権は、信託約款の規定にしたがい、振替口座簿に記載または記録されます。

収益分配金の請求権は、支払開始日から5年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、委託会社が受託会社から交付を受けた金銭は委託会社に帰属します。

(2) 償還金に対する請求権

受益者は、償還金を持分に応じて委託会社に請求する権利を有します。

償還金は、信託終了後1ヵ月以内の委託会社の指定する日から受益者に支払われます。償還金の支払いは、販売会社の営業所等において行うものとし、

※償還金の支払いは、原則として償還日から起算して5営業日までに開始します。

償還金の請求権は、支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、委託会社が受託会社から交付を受けた金銭は委託会社に帰属します。

(3) 受益権の換金（解約）請求権

受益者は、自己に帰属する受益権について、解約の実行を販売会社を通じて委託会社に請求する権利を有しています。権利行使の方法等については、前述の「換金（解約）手続等」をご参照ください。

(4) 帳簿書類の閲覧・謄写の請求権

受益者は委託会社に対し、当該受益者にかかる信託財産に関する書類の閲覧または謄写を請求することができます。

(5) 反対者の買取請求権

信託契約の解約または信託約款の変更を行う場合において、一定の期間内に委託会社に対して異議を述べた受益者は、法令に基づき、受託会社に対し、自己に帰属する受益権を、信託財産をもって買取るべき旨を請求することができます。

第3【ファンドの経理状況】

1. 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。
なお、財務諸表に記載されている金額は、円単位で表示しております。
2. 当ファンドの計算期間は6ヵ月未満であるため、財務諸表は6ヵ月毎に作成しております。
3. 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当特定期間（平成24年11月28日から平成25年5月27日まで）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による監査

を受けております。

1 【財務諸表】

毎月分配 ハイクオリティ・ユーロ債券ファンド

(1) 【貸借対照表】

(単位：円)

	前 期 平成24年11月27日現在	当 期 平成25年5月27日現在
資産の部		
流動資産		
預金	2,437,430	7,629,406
コール・ローン	10,815,207	2,055,824
国債証券	787,998,327	898,493,755
特殊債券	31,092,474	11,732,694
社債券	155,280,163	159,072,478
派生商品評価勘定	1,307,285	151,692
未収入金	12,784,648	24,564,430
未収利息	12,504,911	13,745,769
前払費用	2,503,538	3,944,653
その他未収収益	365,876	684,307
流動資産合計	1,017,089,859	1,122,075,008
資産合計	1,017,089,859	1,122,075,008
負債の部		
流動負債		
派生商品評価勘定	1,526,537	—
未払金	12,617,601	20,408,250
未払収益分配金	6,729,903	6,071,751
未払解約金	14,786	329,952
未払受託者報酬	41,166	43,272
未払委託者報酬	988,101	1,038,749
その他未払費用	51,886	55,604
流動負債合計	21,969,980	27,947,578
負債合計	21,969,980	27,947,578
純資産の部		
元本等		
元本	1,345,980,736	1,214,350,298
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（△）	△350,860,857	△120,222,868
（分配準備積立金）	175,974	3,697
元本等合計	995,119,879	1,094,127,430
純資産合計	995,119,879	1,094,127,430
負債純資産合計	1,017,089,859	1,122,075,008

（２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	前 期 自 平成24年5月29日 至 平成24年11月27日	当 期 自 平成24年11月28日 至 平成25年5月27日
営業収益		
受取利息	18,757,673	18,720,819
有価証券売買等損益	22,597,392	23,353,254
為替差損益	62,126,153	211,042,986
その他収益	306,421	318,431
営業収益合計	103,787,639	253,435,490
営業費用		
受託者報酬	259,835	278,505
委託者報酬	6,237,249	6,685,120
その他費用	822,133	807,907
営業費用合計	7,319,217	7,771,532
営業利益又は営業損失（△）	96,468,422	245,663,958
経常利益又は経常損失（△）	96,468,422	245,663,958
当期純利益又は当期純損失（△）	96,468,422	245,663,958
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（△）	896,347	4,654,722
期首剰余金又は期首欠損金（△）	△449,739,334	△350,860,857
剰余金増加額又は欠損金減少額	54,030,227	33,884,724
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	54,030,227	33,884,724
剰余金減少額又は欠損金増加額	8,502,405	6,637,273
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	8,502,405	6,637,273
分配金	42,221,420	37,618,698
期末剰余金又は期末欠損金（△）	△350,860,857	△120,222,868

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	当期 自 平成24年11月28日 至 平成25年5月27日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	国債証券、特殊債券及び社債券 個別法に基づき、時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（売気配相場を除く）又は価格情報会社の提供する価額のいずれかから入手した価額で評価しております。 また、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、投資信託委託会社が忠実義務に基づいて合理的事由をもって時価と認めた価額もしくは受託会社と協議のうえ両者が合理的事由をもって時価と認めた価額で評価しております。
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	個別法に基づき原則として時価で評価しております。
3. 収益及び費用の計上基準	有価証券売買等損益及び為替予約取引による為替差損益 約定日基準で計上しております。
4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	外貨建資産等の会計処理 「投資信託財産の計算に関する規則」第60条及び第61条に基づいております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	前期 平成24年11月27日現在	当期 平成25年5月27日現在
1. 元本状況		
期首元本額	1,492,002,027円	1,345,980,736円
期中追加設定元本額	27,440,931円	49,510,027円
期中一部解約元本額	173,462,222円	181,140,465円
2. 受益権の総数	1,345,980,736口	1,214,350,298口
3. 元本の欠損	350,860,857円	120,222,868円

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

前期 自 平成24年5月29日 至 平成24年11月27日	当期 自 平成24年11月28日 至 平成25年5月27日																																
1. 投資信託財産の運用の指図に係る権限の全部又は一部を委託するために要する費用として委託者報酬の中から支弁している額 1,722,142円 2. 分配金の計算過程 第120期計算期間末（平成24年6月27日）に、投資信託約款に基づき計算した316,133,877円（1万口当たり2,156.29円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い7,330,515円（1万口当たり50円）を分配しております。 <table> <tr> <td>配当等収益 （費用控除後）</td><td>2,080,650円</td></tr> <tr> <td>有価証券売買等損益</td><td>0円</td></tr> <tr> <td>収益調整金</td><td>300,436,586円</td></tr> <tr> <td>分配準備積立金</td><td>13,616,641円</td></tr> <tr> <td>分配可能額</td><td>316,133,877円</td></tr> <tr> <td>（1万口当たり分配可能額）</td><td>（2,156.29円）</td></tr> <tr> <td>収益分配金</td><td>7,330,515円</td></tr> <tr> <td>（1万口当たり収益分配金）</td><td>（50円）</td></tr> </table>	配当等収益 （費用控除後）	2,080,650円	有価証券売買等損益	0円	収益調整金	300,436,586円	分配準備積立金	13,616,641円	分配可能額	316,133,877円	（1万口当たり分配可能額）	（2,156.29円）	収益分配金	7,330,515円	（1万口当たり収益分配金）	（50円）	1. 投資信託財産の運用の指図に係る権限の全部又は一部を委託するために要する費用として委託者報酬の中から支弁している額 1,847,231円 2. 分配金の計算過程 第126期計算期間末（平成24年12月27日）に、投資信託約款に基づき計算した258,474,581円（1万口当たり1,979.21円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い6,529,749円（1万口当たり50円）を分配しております。 <table> <tr> <td>配当等収益 （費用控除後）</td><td>3,051,458円</td></tr> <tr> <td>有価証券売買等損益 （費用控除後、繰越欠損金補填後）</td><td>0円</td></tr> <tr> <td>収益調整金</td><td>255,252,804円</td></tr> <tr> <td>分配準備積立金</td><td>170,319円</td></tr> <tr> <td>分配可能額</td><td>258,474,581円</td></tr> <tr> <td>（1万口当たり分配可能額）</td><td>（1,979.21円）</td></tr> <tr> <td>収益分配金</td><td>6,529,749円</td></tr> <tr> <td>（1万口当たり収益分配金）</td><td>（50円）</td></tr> </table>	配当等収益 （費用控除後）	3,051,458円	有価証券売買等損益 （費用控除後、繰越欠損金補填後）	0円	収益調整金	255,252,804円	分配準備積立金	170,319円	分配可能額	258,474,581円	（1万口当たり分配可能額）	（1,979.21円）	収益分配金	6,529,749円	（1万口当たり収益分配金）	（50円）
配当等収益 （費用控除後）	2,080,650円																																
有価証券売買等損益	0円																																
収益調整金	300,436,586円																																
分配準備積立金	13,616,641円																																
分配可能額	316,133,877円																																
（1万口当たり分配可能額）	（2,156.29円）																																
収益分配金	7,330,515円																																
（1万口当たり収益分配金）	（50円）																																
配当等収益 （費用控除後）	3,051,458円																																
有価証券売買等損益 （費用控除後、繰越欠損金補填後）	0円																																
収益調整金	255,252,804円																																
分配準備積立金	170,319円																																
分配可能額	258,474,581円																																
（1万口当たり分配可能額）	（1,979.21円）																																
収益分配金	6,529,749円																																
（1万口当たり収益分配金）	（50円）																																

第121期計算期間末（平成24年7月27日）に、投資信託約款に基づき計算した307,074,655円（1万口当たり2,119.13円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い7,245,300円（1万口当たり50円）を分配しております。

配当等収益 （費用控除後）	1,861,090円
有価証券売買等損益	0円
収益調整金	296,968,032円
分配準備積立金	8,245,533円
分配可能額	307,074,655円
（1万口当たり分配可能額）	（2,119.13円）
収益分配金	7,245,300円
（1万口当たり収益分配金）	（50円）

第122期計算期間末（平成24年8月27日）に、投資信託約款に基づき計算した294,662,831円（1万口当たり2,090.61円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い7,047,283円（1万口当たり50円）を分配しております。

配当等収益 （費用控除後）	3,027,943円
有価証券売買等損益 （費用控除後、繰越欠損金補填後）	0円
収益調整金	288,862,495円
分配準備積立金	2,772,393円
分配可能額	294,662,831円
（1万口当たり分配可能額）	（2,090.61円）
収益分配金	7,047,283円
（1万口当たり収益分配金）	（50円）

第123期計算期間末（平成24年9月27日）に、投資信託約款に基づき計算した286,863,737円（1万口当たり2,061.39円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い6,958,005円（1万口当たり50円）を分配しております。

配当等収益 （費用控除後）	2,891,772円
有価証券売買等損益 （費用控除後、繰越欠損金補填後）	0円
収益調整金	281,730,287円
分配準備積立金	2,241,678円
分配可能額	286,863,737円
（1万口当たり分配可能額）	（2,061.39円）
収益分配金	6,958,005円
（1万口当たり収益分配金）	（50円）

第124期計算期間末（平成24年10月29日）に、投資信託約款に基づき計算した281,166,867円（1万口当たり2,034.37円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い6,910,414円（1万口当たり50円）を分配しております。

配当等収益 （費用控除後）	3,174,163円
有価証券売買等損益 （費用控除後、繰越欠損金補填後）	0円
収益調整金	277,870,291円
分配準備積立金	122,413円
分配可能額	281,166,867円
（1万口当たり分配可能額）	（2,034.37円）
収益分配金	6,910,414円
（1万口当たり収益分配金）	（50円）

第125期計算期間末（平成24年11月27日）に、投資信託約款に基づき計算した269,982,548円（1万口当たり2,005.84円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い6,729,903円（1万口当たり50円）を分配しております。

第127期計算期間末（平成25年1月28日）に、投資信託約款に基づき計算した249,555,830円（1万口当たり1,955.17円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い6,381,933円（1万口当たり50円）を分配しております。

配当等収益 （費用控除後）	3,313,111円
有価証券売買等損益 （費用控除後、繰越欠損金補填後）	0円
収益調整金	246,157,431円
分配準備積立金	85,288円
分配可能額	249,555,830円
（1万口当たり分配可能額）	（1,955.17円）
収益分配金	6,381,933円
（1万口当たり収益分配金）	（50円）

第128期計算期間末（平成25年2月27日）に、投資信託約款に基づき計算した241,331,680円（1万口当たり1,917.81円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い6,291,869円（1万口当たり50円）を分配しております。

配当等収益 （費用控除後）	1,574,253円
有価証券売買等損益	0円
収益調整金	239,679,942円
分配準備積立金	77,485円
分配可能額	241,331,680円
（1万口当たり分配可能額）	（1,917.81円）
収益分配金	6,291,869円
（1万口当たり収益分配金）	（50円）

第129期計算期間末（平成25年3月27日）に、投資信託約款に基づき計算した236,325,664円（1万口当たり1,890.09円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い6,251,713円（1万口当たり50円）を分配しております。

配当等収益 （費用控除後）	2,782,092円
有価証券売買等損益 （費用控除後、繰越欠損金補填後）	0円
収益調整金	233,527,880円
分配準備積立金	15,692円
分配可能額	236,325,664円
（1万口当たり分配可能額）	（1,890.09円）
収益分配金	6,251,713円
（1万口当たり収益分配金）	（50円）

第130期計算期間末（平成25年4月30日）に、投資信託約款に基づき計算した227,670,115円（1万口当たり1,868.70円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い6,091,683円（1万口当たり50円）を分配しております。

配当等収益 （費用控除後）	3,474,799円
有価証券売買等損益 （費用控除後、繰越欠損金補填後）	0円
収益調整金	224,149,746円
分配準備積立金	45,570円
分配可能額	227,670,115円
（1万口当たり分配可能額）	（1,868.70円）
収益分配金	6,091,683円
（1万口当たり収益分配金）	（50円）

第131期計算期間末（平成25年5月27日）に、投資信託約款に基づき計算した223,429,902円（1万口当たり1,839.91円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い6,071,751円（1万口当たり50円）を分配しております。

配当等収益 （費用控除後）	2,888,211円	配当等収益 （費用控除後）	2,567,659円
有価証券売買等損益 （費用控除後、繰越欠損金補填後）	0円	有価証券売買等損益 （費用控除後、繰越欠損金補填後）	0円
収益調整金	266,980,015円	収益調整金	220,754,634円
分配準備積立金	114,322円	分配準備積立金	107,609円
分配可能額	269,982,548円	分配可能額	223,429,902円
（1万口当たり分配可能額）	（2,005.84円）	（1万口当たり分配可能額）	（1,839.91円）
収益分配金	6,729,903円	収益分配金	6,071,751円
（1万口当たり収益分配金）	（50円）	（1万口当たり収益分配金）	（50円）

（金融商品に関する注記）

I 金融商品の状況に関する事項

項目	当期 自 平成24年11月28日 至 平成25年5月27日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。
2. 金融商品の内容及びリスク	当ファンドが保有している金融商品の種類は、有価証券、デリバティブ取引、金銭債権及び金銭債務であります。これらの金融商品に係るリスクは、価格変動リスク、信用リスク、為替変動リスク及び流動性リスクであります。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	委託会社のファンドの運用におけるリスク管理については、運用部門から独立した組織体制で行っております。運用管理委員会（代表取締役社長を委員長とします。）は、ファンドの運用状況を総合的に分析・評価するとともに、運用リスク管理の強化・改善に向けた方策を討議・決定しております。また、プロダクト管理部運用審査室は、ファンドのパフォーマンス分析・評価並びにリスク分析を行い、運用本部に開示するとともに、運用管理委員会を通じて、運用リスクの軽減に向けた提言を行っております。
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

II 金融商品の時価等に関する事項

項目	当期 平成25年5月27日現在
1. 金融商品の時価及び貸借対照表計上額との差額	金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)デリバティブ取引 デリバティブ取引等関係に関する注記に記載しております。 (3)金銭債権及び金銭債務 短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから帳簿価額を時価としております。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

前期（平成24年11月27日現在）

種類	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額（円）
国債証券	3,909,415
特殊債券	△32,480
社債券	646,402
合計	4,523,337

当期（平成25年5月27日現在）

種類	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額（円）
国債証券	△9,696,191
特殊債券	△27,790

社 債 券	△269,480
合計	△9,993,461

（デリバティブ取引等関係に関する注記）
ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引
（通貨関連）

区分	種類	前期 平成24年11月27日現在			
		契約額等 （円）	うち 1年超 （円）	時価（円）	評価損益（円）
市場取引 以外の取引	為替予約取引 買建				
	ポーランド・ズロチ	8,034,648	—	8,492,270	457,622
	ユーロ	20,409,240	—	21,258,902	849,662
	売建				
	ポーランド・ズロチ	20,409,240	—	21,592,020	△1,182,780
	ユーロ	8,834,648	—	9,178,404	△343,756
合計		—	—	60,521,596	△219,252

区分	種類	当期 平成25年 5月27日現在			
		契約額等 （円）	うち 1年超 （円）	時価（円）	評価損益（円）
市場取引 以外の取引	為替予約取引 売建				
	ユーロ	10,000,000	—	9,848,308	151,692
合計		—	—	9,848,308	151,692

- （注）時価の算定方法
- A. 特定期間末日に対顧客先物相場の仲値が発表されている外貨につきましては、以下のように評価しております。
- ① 特定期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物相場の仲値が発表されている場合には、当該為替予約は当該仲値で評価しております。
- ② 特定期間末日において当該日の対顧客先物相場が発表されていない場合には、以下の方法によっております。
- ・ 特定期間末日に当該日を超える対顧客先物相場が発表されている場合には、発表されている先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの先物相場の仲値をもとに計算したレートをを用いております。
 - ・ 特定期間末日に当該日を超える対顧客先物相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い発表されている対顧客先物相場の仲値を用いております。
- B. 特定期間末日に対顧客先物相場の仲値が発表されていない外貨につきましては、特定期間末日の対顧客相場の仲値で評価しております。

（関連当事者との取引に関する注記）
当期（自 平成24年11月28日 至 平成25年 5月27日）
該当事項はありません。

前期 平成24年11月27日現在	当期 平成25年 5月27日現在
1口当たり純資産額 0.7393円 「1口＝1円（10,000口＝7,393円）」	1口当たり純資産額 0.9010円 「1口＝1円（10,000口＝9,010円）」

（４）【附属明細表】
①有価証券明細表
＜株式以外の有価証券＞

通貨	種類	銘柄	券面総額	評価額	備考
ノルウェー・クローネ	国債証券	NGTB 0 06/19/13	1,361,000.000	1,359,802.320	
	小計（ノルウェー・クローネ）1銘柄		1,361,000.000	1,359,802.320 (23,524,580)	
ユーロ	国債証券	BGB 3.5 03/28/15	41,000.000	43,546.100	
	国債証券	BGB 4 03/28/18	142,000.000	163,476.080	
	国債証券	BGB 5 03/28/35	105,000.000	140,336.700	
	国債証券	BTPS 3.75 03/01/21	471,000.000	476,416.500	
	国債証券	BTPS 4.25 08/01/14	188,000.000	195,016.160	
	国債証券	BTPS 4.5 02/01/18	186,000.000	198,964.200	

国債証券	BTPS 4.75 09/15/16	196,000.000	210,660.800	
国債証券	BTPS 5 09/01/40	409,000.000	419,265.900	
国債証券	BTPS 6 05/01/31	167,000.000	195,072.700	
国債証券	CZECH 3.875 05/24/22	82,000.000	95,144.600	
国債証券	DBR 1.5 02/15/23	21,000.000	21,207.900	
国債証券	DBR 1.75 07/04/22	246,000.000	256,051.560	
国債証券	DBR 2.5 01/04/21	120,000.000	133,728.000	
国債証券	DBR 2.5 07/04/44	36,000.000	37,707.120	
国債証券	DBR 3.25 07/04/15	9,000.000	9,614.970	
国債証券	DBR 4 01/04/37	14,000.000	18,489.800	
国債証券	DBR 4.25 07/04/18	15,000.000	17,871.750	
国債証券	DEUTSCH 5.5 01/04/31	32,000.000	47,929.600	
国債証券	FRTR 3.75 04/25/21	228,000.000	267,056.400	
国債証券	FRTR 4.25 10/25/18	368,000.000	434,111.200	
国債証券	FRTR 4.75 04/25/35	28,000.000	36,733.200	
国債証券	FRTR 5.75 10/25/32	337,000.000	493,401.700	
国債証券	NETHER 2.75 01/15/15	81,000.000	84,555.900	
国債証券	NETHER 3.75 07/15/14	267,000.000	278,080.500	
国債証券	NETHER 4.5 07/15/17	43,000.000	50,009.000	
国債証券	NETHER 5.5 01/15/28	83,000.000	118,208.600	
国債証券	OBL 1.25 10/14/16	301,000.000	312,281.480	
国債証券	OBL 2 02/26/16	270,000.000	284,377.500	
国債証券	POLAND 3.375 07/09/24	68,000.000	72,681.800	
国債証券	RAGB 3.4 11/22/22	75,000.000	86,772.750	
国債証券	RAGB 3.5 07/15/15	102,000.000	109,344.000	
国債証券	RAGB 3.5 09/15/21	97,000.000	113,029.250	
国債証券	RAGB 4.85 03/15/26	37,000.000	48,844.070	
国債証券	RAGB 6.25 07/15/27	139,000.000	208,910.050	
国債証券	RFGB 3.375 04/15/20	103,000.000	118,980.450	
国債証券	SPGB 4.1 07/30/18	302,000.000	314,472.600	
国債証券	SPGB 4.4 01/31/15	129,000.000	135,011.400	
国債証券	SPGB 4.6 07/30/19	40,000.000	42,174.000	
国債証券	SPGB 5.75 07/30/32	259,000.000	284,252.500	
国債証券	SPGB 5.85 01/31/22	32,000.000	35,716.800	
国債証券	SWED 0.875 01/31/18	100,000.000	101,410.000	
特殊債券	SEK 3.625 05/27/14	87,000.000	89,988.450	
社債券	ABIBB 2 12/16/19	20,000.000	20,744.000	
社債券	ABNAV 4.125 03/28/22	24,000.000	27,607.920	
社債券	ALVGR FL 01/13/25	18,000.000	19,458.900	
社債券	BACR 4 10/07/19	50,000.000	58,720.000	
社債券	BACR 4.875 08/13/19	50,000.000	59,850.000	
社債券	BBVASM 3.5 12/05/17	100,000.000	106,030.000	
社債券	BMW 3.875 01/18/17	20,000.000	22,168.000	
社債券	BNP 2.875 11/27/17	25,000.000	26,855.000	
社債券	BPLN 3.83 10/06/17	50,000.000	56,083.000	
社債券	DAIGR 2.625 04/02/19	15,000.000	16,016.850	
社債券	EIBKOR 4.625 02/20/17	61,000.000	68,295.600	
社債券	ENIIM 3.5 01/29/18	50,000.000	55,145.000	
社債券	GE 4.625 02/22/27	50,000.000	60,288.000	
社債券	GS 6.375 05/02/18	25,000.000	30,550.000	
社債券	GSZFP 5.625 01/18/16	29,000.000	32,787.400	
社債券	INTNED 4.125 04/11/16	12,000.000	13,038.120	
社債券	LLOYDS 6.375 06/17/16	50,000.000	58,095.000	
社債券	MET 4.625 05/16/17	50,000.000	56,815.000	
社債券	NAB 3.75 01/06/17	12,000.000	13,258.800	
社債券	NWIDE 3.75 01/20/15	50,000.000	52,362.500	
社債券	NWIDE 4.375 02/28/22	50,000.000	61,567.500	
社債券	PFG 4.5 01/26/17	50,000.000	55,635.000	
社債券	RABOBK 4.25 01/16/17	24,000.000	26,745.600	
社債券	RY 4.625 01/22/18	50,000.000	58,980.000	
社債券	SANFP 3.125 10/10/14	4,000.000	4,155.400	
社債券	SANFP 4.5 05/18/16	5,000.000	5,585.500	
社債券	SOCGEN 3.125 09/21/17	50,000.000	53,916.500	
社債券	TOYOTA 2.375 02/01/23	10,000.000	10,284.500	

社債券	UCGIM 4.25 07/29/16	50,000.000	54,955.000	
社債券	VW 2.375 06/28/13	10,000.000	10,018.000	
社債券	VW 5.375 05/22/18	20,000.000	24,056.000	
小計（ユーロ）73銘柄		7,140,000.000	8,020,972.130 (1,045,774,347)	
合計			1,069,298,927 (1,069,298,927)	

- (注) 1. 各種通貨ごとの小計の欄における()内の金額は、邦貨換算額であります。
2. 合計欄は邦貨金額を表示しております。()内の金額は、外貨建有価証券の邦貨換算額の合計額であり、内数で表示しております。
3. 外貨建有価証券の内訳

通貨	銘柄数	組入有価証券 時価比率	有価証券の合計 金額に対する比率
ノルウェー・クローネ	国債証券 1 銘柄	2.15%	2.20%
ユーロ	国債証券 41銘柄	95.58%	97.80%
	特殊債券 1 銘柄		
	社債券 31銘柄		

※組入有価証券時価比率とは、純資産額に対する比率であります。

②為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

注記表中の(デリバティブ取引等関係に関する注記)で記載しており、ここでは省略しております。

2【ファンドの現況】

【純資産額計算書】

（平成25年6月末現在）

毎月分配 ハイクオリティ・ユーロ債券ファンド

I 資産総額	1,056,468,835 円
II 負債総額	20,779,659 円
III 純資産総額（I－II）	1,035,689,176 円
IV 発行済数量	1,199,560,899 口
V 1単位当り純資産額（III／IV）	0.8634 円

第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

1 名義書換手続など

該当事項はありません。

2 受益者名簿

作成しません。

3 受益者集会

開催しません。

4 受益者に対する特典

ありません。

5 受益権の譲渡

①受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとします。

②上記①の申請のある場合には、上記①の振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、上記①の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。

③上記①の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めたときまたはやむをえない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

6 受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

7 受益権の再分割

委託会社は、受託会社と協議のうえ、社振法に定めるところにしたがい、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

8 償還金

償還金は、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者としてします。）に支払います。

9 質権口記載又は記録の受益権の取り扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付、一部解約金および償還金の支払い等については、約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取り扱われます。

（注）委託会社は、この信託の受益権を取り扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取り消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。

なお、受益者は、委託会社がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

第二部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

(1)資本金の額

資本金の額：20億円（平成25年6月末現在）

会社が発行する株式総数：12,800,000株

発行済株式総数：3,850,000株

最近5年間における主な資本金の額の増減：該当事項はありません。

(2)会社の機構

会社は、8名以内で構成される取締役により運営されます。取締役は、株主総会の決議によって選任されます。取締役の選任は、議決権を行使することができる総株主の議決権の3分の2以上を有する株主が出席し、議決権を行使することができる総株主の議決権の3分の2以上をもってこれを行います。

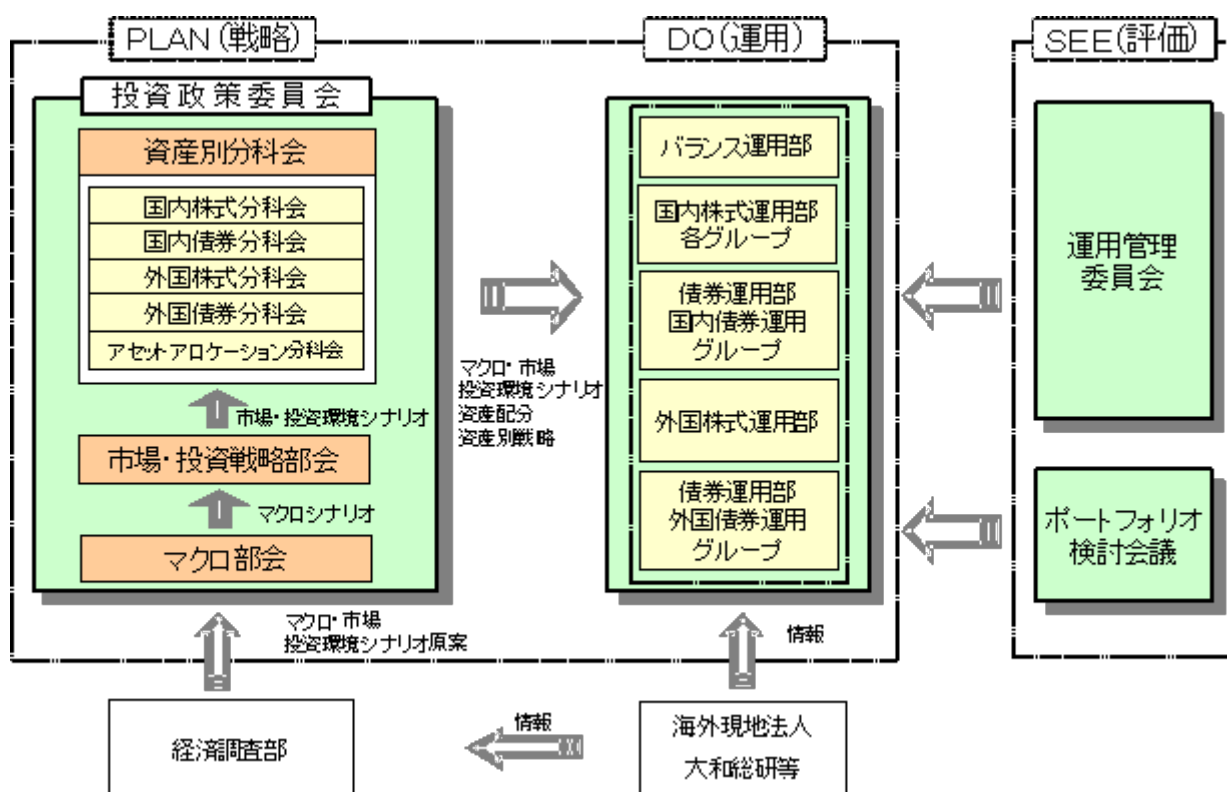
取締役の任期は、選任後1年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとします。補欠として選任された取締役の任期は、前任取締役の任期の満了する時までとします。

取締役会は、取締役会の決議によって取締役の中から取締役社長、取締役副社長各1名、専務取締役および常務取締役若干名を選定することができます。また代表取締役は2名とし、取締役社長および取締役副社長がこれに就任します。

取締役会は、法令に別段の定めがある場合を除き、代表取締役が招集し、招集通知は3日前までにこれを発します。ただし、緊急の必要があるときは、この期間を短縮することができます。

取締役会は、法令または定款に定める事項の他、業務執行に関する重要事項を決定します。その決議は、取締役の6名以上が出席し、その出席取締役の過半数をもって行います。

<投信運用の意思決定プロセス>



2【事業の内容及び営業の概況】

委託会社は、株式会社住友銀行（現株式会社三井住友フィナンシャルグループ）および大和証券株式会社（現株式会社大和証券グループ本社）の戦略的提携により平成11年4月1日付で、大和投資顧問株式会社と住銀投資顧問株式会社およびエス・ビー・アイ・エム投信株式会社の三社が合併して設立された会社です。

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っています。また、「金融商品取引法」に定める投資助言業務を行っています。

平成25年6月末現在、委託会社が運用の指図を行っている投資信託の総ファンド数は、165本であり、その純資産総額は、約2,750,914百万円です（なお、親投資信託54本は、ファンド数及び純資産総額からは除いております。）。

種類	ファンド数	純資産総額
単位型株式投資信託	5	78,623百万円
追加型株式投資信託	159	2,669,788百万円
単位型公社債投資信託	1	2,503百万円
合計	165	2,750,914百万円

3【委託会社等の経理状況】

1. 委託会社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。）並びに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号。）により作成しております。
2. 財務諸表の記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。
3. 委託会社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第41期事業年度（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による監査を受けております。

（１）【貸借対照表】

（単位：千円）

		第40期 (平成24年3月31日)	第41期 (平成25年3月31日)
資産の部			
流動資産			
現金・預金		15,886,867	17,579,316
前払費用		176,593	156,563
未収委託者報酬		2,348,724	2,378,328
未収運用受託報酬		830,844	799,736
未収収益		24,384	21,990
繰延税金資産		485,508	473,110
その他		5,956	3,144
流動資産計		19,758,878	21,412,190
固定資産			
有形固定資産			
建物	※1	225,511	183,873
器具備品	※1	60,686	87,233
土地		710	710
リース資産	※1	7,309	8,895
有形固定資産計		294,217	280,711
無形固定資産			
ソフトウェア		389,329	261,979
電話加入権		12,706	12,706
無形固定資産計		402,036	274,685
投資その他の資産			
投資有価証券		4,950,199	5,125,836
関係会社株式		1,169,774	1,169,774
従業員長期貸付金		2,534	1,904
長期差入保証金		741,014	509,430
出資金		157,660	132,660
繰延税金資産		543,639	548,043
その他		2,403	1,716
貸倒引当金		△70,650	△70,650
投資その他の資産計		7,496,574	7,418,714

固定資産計	8,192,828	7,974,112
資産合計	27,951,706	29,386,302

(単位：千円)

	第40期 (平成24年3月31日)	第41期 (平成25年3月31日)
負債の部		
流動負債		
リース債務	2,841	3,396
未払金	222,814	165,892
未払手数料	1,094,446	1,113,859
未払費用	1,010,635	1,127,749
未払法人税等	1,570,446	939,336
賞与引当金	874,000	880,000
役員賞与引当金	79,100	73,000
その他	18,977	20,203
流動負債計	4,873,261	4,323,437
固定負債		
リース債務	4,833	5,944
退職給付引当金	1,139,061	1,268,146
役員退職慰労引当金	144,730	148,470
固定負債計	1,288,624	1,422,561
負債合計	6,161,886	5,745,998

(単位：千円)

	第40期 (平成24年3月31日)	第41期 (平成25年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,000,000	2,000,000
資本剰余金		
資本準備金	156,268	156,268
資本剰余金合計	156,268	156,268

利益剰余金		
利益準備金	343,731	343,731
その他利益剰余金		
別途積立金	1,100,000	1,100,000
繰越利益剰余金	18,204,076	19,981,120
利益剰余金合計	19,647,807	21,424,851
株主資本合計	21,804,076	23,581,120
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△14,256	59,183
評価・換算差額等合計	△14,256	59,183
純資産合計	21,789,820	23,640,304
負債純資産合計	27,951,706	29,386,302

（２）【損益計算書】

（単位：千円）

	第40期 （自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）	第41期 （自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）
営業収益		
運用受託報酬	3,091,311	2,960,778
委託者報酬	27,285,403	27,854,931
その他営業収益	131,340	90,710
営業収益計	30,508,054	30,906,420
営業費用		
支払手数料	12,829,874	13,056,993
広告宣伝費	131,967	175,532
公告費	2,247	1,059
調査費		
調査費	1,103,744	1,114,992
委託調査費	3,541,508	4,000,398
委託計算費	122,453	131,444
営業雑経費		
通信費	29,616	31,982
印刷費	350,466	404,102
協会費	23,131	27,397
諸会費	3,166	4,830
その他	29,989	30,634
営業費用計	18,168,165	18,979,368
一般管理費		
給料		
役員報酬	197,010	201,630
給料・手当	2,831,165	2,883,776
賞与	44,371	55,582
退職金	844	4,450
福利厚生費	544,128	559,967
交際費	19,828	22,159
旅費交通費	151,573	146,403
租税公課	74,062	72,111
不動産賃借料	841,453	726,878

退職給付費用	206,629	213,305
固定資産減価償却費	96,356	79,314
賞与引当金繰入額	874,000	873,819
役員退職慰労引当金繰入額	38,080	38,530
役員賞与引当金繰入額	79,100	67,700
諸経費	255,488	255,296
一般管理費計	6,254,092	6,200,926
営業利益	6,085,796	5,726,125
営業外収益		
受取配当金	149,045	25,045
受取利息	3,732	3,232
投資有価証券売却益	—	33,455
為替差益	—	2,945
その他	11,769	11,668
営業外収益計	164,547	76,346
営業外費用		
投資有価証券売却損	4,016	—
為替差損	2,424	—
その他	957	55
営業外費用計	7,398	55
経常利益	6,242,945	5,802,417
特別利益		
投資有価証券売却益	—	42,767
特別利益計	—	42,767
特別損失		
投資有価証券評価損	50,687	—
投資有価証券売却損	※1	111,382
その他	5,375	4,583
特別損失計	56,063	115,965
税引前当期純利益	6,186,881	5,729,219
法人税、住民税及び事業税	2,653,180	2,213,779
法人税等調整額	4,043	△32,604

法人税等合計	2,657,223	2,181,175
当期純利益	3,529,657	3,548,044

(3) 【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	第40期 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	第41期 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	2,000,000	2,000,000
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	2,000,000	2,000,000
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	156,268	156,268
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	156,268	156,268
資本剰余金合計		
当期首残高	156,268	156,268
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	156,268	156,268
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	343,731	343,731
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	343,731	343,731
その他利益剰余金		
別途積立金		
当期首残高	1,100,000	1,100,000
当期変動額		

当期変動額合計	—	—
当期末残高	1,100,000	1,100,000
繰越利益剰余金		
当期首残高	16,098,918	18,204,076
当期変動額		
剰余金の配当	△1,424,500	△1,771,000
当期純利益	3,529,657	3,548,044
当期変動額合計	2,105,157	1,777,044
当期末残高	18,204,076	19,981,120
利益剰余金合計		
当期首残高	17,542,649	19,647,807
当期変動額		
剰余金の配当	△1,424,500	△1,771,000
当期純利益	3,529,657	3,548,044
当期変動額合計	2,105,157	1,777,044
当期末残高	19,647,807	21,424,851
株主資本合計		
当期首残高	19,698,918	21,804,076
当期変動額		
剰余金の配当	△1,424,500	△1,771,000
当期純利益	3,529,657	3,548,044
当期変動額合計	2,105,157	1,777,044
当期末残高	21,804,076	23,581,120
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	△35,129	△14,256
当期変動額		
株主資本以外の項目	20,873	73,440
の当期変動額（純額）		
当期変動額合計	20,873	73,440
当期末残高	△14,256	59,183
評価・換算差額等合計		
当期首残高	△35,129	△14,256
当期変動額		

株主資本以外の項目	20,873	73,440
の当期変動額（純額）		
当期変動額合計	20,873	73,440
当期末残高	△14,256	59,183
純資産合計		
当期首残高	19,663,789	21,789,820
当期変動額		
剰余金の配当	△1,424,500	△1,771,000
当期純利益	3,529,657	3,548,044
株主資本以外の項目の当 期変動額（純額）	20,873	73,440
当期変動額合計	2,126,030	1,850,484
当期末残高	21,789,820	23,640,304

[次へ](#)

重要な会計方針

1.有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

総平均法による原価法を採用しております。

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、総平均法により算定）を採用しております。

時価のないもの

総平均法による原価法を採用しております。

2.固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。但し、平成10年4月以降に取得した建物（建物附属設備は除く）については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 15～30年

器具備品 4～15年

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3.引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等の特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員賞与の支払に備えるため、将来の支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員賞与の支払に備えるため、将来の支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、社内規定に基づく当事業年度末の要支給額を計上しております。これは、当社の退職金は、将来の昇給等による給付額の変動がなく、貢献度、能力及び実績に応じて、各事業年度ごとに各人別に勤務費用が確定するためです。

(5) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支払に備えるため、役員退職慰労金規程に基づく当事業年度末の要支給額を計上しております。

4.その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

会計方針の変更等

（会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更）

法人税法の改正に伴い、当事業年度より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当事業年度の営業利益、経常利益及び税引前当期純利益がそれぞれ2,523千円増加しております。

注記事項

（貸借対照表関係）

第40期 (平成24年3月31日)	第41期 (平成25年3月31日)
※1.有形固定資産の減価償却累計額	※1.有形固定資産の減価償却累計額
建物 315,276千円	建物 354,743千円
器具備品 273,481千円	器具備品 307,425千円
リース資産 3,712千円	リース資産 7,382千円
2.保証債務	2.保証債務
被保証者 従業員	被保証者 従業員
被保証債務の内容 住宅ローン	被保証債務の内容 住宅ローン
金額 19,359千円	金額 15,346千円

（損益計算書関係）

関係会社に対するものは、次のとおりであります。

	第40期 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	第41期 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
※1.投資有価証券売却損	一千円	111,382千円

（株主資本等変動計算書関係）

第40期（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

1.発行済株式に関する事項（単位：千株）

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式	3,850	—	—	3,850
合 計	3,850	—	—	3,850

2.配当に関する事項

（1）配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成23年6月30日 定時株主総会	普通株式	1,424,500	370	平成23年3月31日	平成23年6月30日

（2）基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の 原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
----	-------	----------------	-----------	------------------	-----	-------

平成24年6月29日 定時株主総会	普通 株式	1,771,000	利益 剰余金	460	平成24年3月31日	平成24年6月29日
----------------------	----------	-----------	-----------	-----	------------	------------

第41期（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

1. 発行済株式に関する事項（単位：千株）

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式	3,850	—	—	3,850
合 計	3,850	—	—	3,850

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年6月29日 定時株主総会	普通株式	1,771,000	460	平成24年3月31日	平成24年6月29日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの
平成25年6月24日開催の第41回定時株主総会において、次のとおり付議致します。

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の 原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成25年6月24日 定時株主総会	普通 株式	3,545,850	利益 剰余金	921	平成25年3月31日	平成25年6月25日

(リース取引関係)

リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引
(借主側)

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：千円)

	第40期（平成24年3月31日）		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
器具備品	4,823	3,939	884
合計	4,823	3,939	884

(単位：千円)

	第41期（平成25年3月31日）		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
器具備品	4,823	4,823	—
合計	4,823	4,823	—

(2) 未経過リース料期末残高相当額

(単位：千円)

	第40期(平成24年3月31日)	第41期（平成25年3月31日）
1年内	961	—
1年超	—	—
合計	961	—

(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

(単位：千円)

	第40期 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	第41期 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
支払リース料	1,070	981
減価償却費相当額	964	884
支払利息相当額	62	20

(4) 減価償却費相当額及び利息相当額の算定方法

減価償却費相当額の算定方法

- ・リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

支払利息相当額の算定方法

- ・リース料総額とリース物件の取得価額相当額の差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、投資運用業及び投資助言・代理業などの資産運用事業を行っております。余裕資金は安全で流動性の高い金融資産で運用し、銀行からの借入や社債の発行はありません。

安全性の高い金融商品での短期的な運用の他に、自社ファンドの設定に自己資本を投入しております。

その自己設定投信は、事業推進目的で保有しており、設定、解約又は償還に関しては、社内規定に従っております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

主たる営業債権は、投資運用業等より発生する未収委託者報酬、未収運用受託報酬であります。

これらの債権は、全て1年以内の債権であり、そのほとんどが信託財産の中から支払われるため、回収不能となるリスクは極めて軽微であります。

投資有価証券は、その大半が事業推進目的で設定した投資信託であり、価格変動リスク及び為替変動リスクに晒されております。

未払手数料は、投資信託の販売に係る支払手数料であります。また、未払費用は、投資信託の運用に係る再委託手数料であります。

これらの債務は、全て1年以内の債務であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

①信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、社内規定に従って取引先を選定し、担当部門で取引先の状況を定期的にモニタリングし、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

②市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社は、投資有価証券の一部を除いて、資金決済のほとんどを自国通貨で行っているため、為替の変動リスクは極めて限定的であります。

投資有価証券のうち自己設定投信については、その残高及び損益状況等を定期的に経営会議に報告しております。

また、デリバティブ取引についても行っておりません。

③資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、社内規定に従って手元流動性を維持することにより、流動性リスクを管理しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表に含めておりません（(注2)を参照ください）。

第40期（平成24年3月31日）

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金・預金	15,886,867	15,886,867	—
(2) 未収委託者報酬	2,348,724	2,348,724	—
(3) 未収運用受託報酬	830,844	830,844	—
(4) 投資有価証券 その他有価証券	4,711,863	4,711,863	—
資産計	23,778,298	23,778,298	—
(1) 未払手数料	1,094,446	1,094,446	—
(2) 未払費用（*1）	823,266	823,266	—
負債計	1,917,712	1,917,712	—

（*1）金融商品に該当するものを表示しております。

第41期（平成25年3月31日）

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金・預金	17,579,316	17,579,316	—
(2) 未収委託者報酬	2,378,328	2,378,328	—
(3) 未収運用受託報酬	799,736	799,736	—
(4) 投資有価証券 其他有価証券	5,074,700	5,074,700	—
資産計	25,832,081	25,832,081	—
(1) 未払手数料	1,113,859	1,113,859	—
(2) 未払費用（*1）	853,268	853,268	—
負債計	1,967,127	1,967,127	—

（*1）金融商品に該当するものを表示しております。

（注1）金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

(1) 現金・預金、(2) 未収委託者報酬、及び (3) 未収運用受託報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

投資信託であり、公表されている基準価額によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

負債

(1) 未払手数料、及び (2) 未払費用

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

（注2）時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

（単位：千円）

区分	第40期（平成24年3月31日）	第41期（平成25年3月31日）
(1) その他有価証券 非上場株式	238,335	51,135
(2) 子会社株式 非上場株式	1,169,774	1,169,774
(3) 長期差入保証金	741,014	509,430

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象としておりません。このため、(1) その他有価証券の非上場株式については
2. (4) 投資有価証券には含めておりません。

（注3）金銭債権及び満期がある有価証券の決算日以後の償還予定額

第40期（平成24年3月31日）

（単位：千円）

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金・預金	15,886,867	—	—	—
未収委託者報酬	2,348,724	—	—	—
未収運用受託報酬	830,844	—	—	—
投資有価証券				
その他有価証券	—	1,067,561	4,004	—
合計	19,066,435	1,067,561	4,004	—

第41期（平成25年3月31日）

（単位：千円）

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金・預金	17,579,316	—	—	—
未収委託者報酬	2,378,328	—	—	—
未収運用受託報酬	799,736	—	—	—
投資有価証券				
その他有価証券	—	1,106,722	4,006	—
合計	20,757,380	1,106,722	4,006	—

（有価証券関係）

1. 子会社株式

第40期（平成24年3月31日）

子会社株式（貸借対照表計上額、関係会社株式 1,169,774千円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

第41期（平成25年3月31日）

子会社株式（貸借対照表計上額、関係会社株式 1,169,774千円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

2. その他有価証券

第40期（平成24年3月31日）

（単位：千円）

区分	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
(1) 株式	—	—	—
(2) 債券	—	—	—
(3) その他	3,256,023	3,234,000	22,023
小計	3,256,023	3,234,000	22,023
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
(1) 株式	—	—	—
(2) 債券	—	—	—
(3) その他	1,455,840	1,500,000	△44,160
小計	1,455,840	1,500,000	△44,160
合計	4,711,863	4,734,000	△22,136

（注）非上場株式（貸借対照表計上額 238,335千円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

なお、非上場株式のうち一部を当期において減損処理を行い、投資有価証券評価損50,687千円を計上しております。

第41期（平成25年3月31日）

（単位：千円）

区分	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
(1) 株式	—	—	—
(2) 債券	—	—	—
(3) その他	3,683,580	3,582,800	100,780
小計	3,683,580	3,582,800	100,780
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
(1) 株式	—	—	—
(2) 債券	—	—	—
(3) その他	1,391,120	1,400,000	△8,880
小計	1,391,120	1,400,000	△8,880
合計	5,074,700	4,982,800	91,900

（注）非上場株式（貸借対照表計上額 51,135千円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

3. 当事業年度中に売却したその他有価証券

第40期（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

（単位：千円）

種類	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
その他	23,383	—	4,016

第41期（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

（単位：千円）

種類	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
その他	953,041	76,223	111,382

（デリバティブ取引関係）

当社は、デリバティブ取引を全く利用しておりませんので、該当事項はありません。

（退職給付関係）

1. 採用している退職給付制度の概要

退職金規程に基づく退職一時金制度のほか、確定拠出年金制度を採用しております。

2. 退職給付債務に関する事項

（単位：千円）

区分	第40期（平成24年3月31日）	第41期（平成25年3月31日）
退職給付引当金	1,139,061	1,268,146

（注）退職給付債務の算定にあたり簡便法を採用しております。

3.退職給付費用に関する事項

(単位：千円)

区分	第40期 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	第41期 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
勤務費用	151,221	156,423
確定拠出年金掛金	55,408	56,882
合計	206,629	213,305

(注) 退職給付費用の算定にあたり簡便法を採用しております。

(税効果会計関係)

1.繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(単位：千円)

	第40期 (平成24年3月31日)	第41期 (平成25年3月31日)
繰延税金資産		
(1) 流動資産		
未払事業税	111,121	78,096
賞与引当金	332,120	334,400
社会保険料	29,079	33,579
未払事業所税	5,098	5,144
その他	8,088	21,890
繰延税金資産合計	485,508	473,110
(2) 固定資産		
退職給付引当金	408,872	454,741
投資有価証券	53,733	2,469
ゴルフ会員権	32,333	32,333
役員退職慰労引当金	54,186	55,431
その他有価証券評価差額金	7,880	—
その他	72,699	70,587
繰延税金資産小計	629,709	615,562
評価性引当額	△ 86,067	△ 34,803
繰延税金資産合計	543,639	580,759
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	—	△ 32,716
繰延税金負債合計	—	△ 32,716
繰延税金資産の純額	1,029,147	1,021,153

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	第40期 (平成24年3月31日)	第41期 (平成25年3月31日)
法定実効税率	40.6%	—
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.7〃	—
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△1.0〃	—
過年度法人税等	0.8〃	—
評価性引当額	0.3〃	—
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	1.6〃	—
その他	△0.1〃	—
税効果会計適用後の法人税等の負担率	42.9%	—

(注) 第41期は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(セグメント情報等)

セグメント情報

1. 報告セグメントの概要

当社は、「投資・金融サービス業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

関連情報

第40期（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千

円)

	投資信託委託業	投資一任業務	その他	合計
外部顧客からの営業 収益	27,285,403	3,091,311	131,340	30,508,054

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

本邦の顧客からの営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客からの営業収益のうち、損益計算書の営業収益10%以上を占める相手先がないため、記載は省略しております。

第41期（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千

円)

	投資信託委託業	投資一任業務	その他	合計
外部顧客からの営業 収益	27,854,931	2,960,778	90,710	30,906,420

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

本邦の顧客からの営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客からの営業収益のうち、損益計算書の営業収益10%以上を占める相手先がないため、記載は省略しております。

報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報
該当事項はありません。

報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報
該当事項はありません。

報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報
該当事項はありません。

(関連当事者との取引)

第40期（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

兄弟会社等

属性	会社等の名称	住所	資本金 (億円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有割合	関連当事者との関係		取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
						役員 の兼任等	事業上の関係				
その他の関係会社の子会社	大和証券株式会社	東京都千代田区	1,000	証券業	—	—	当社投資信託に係る事務代行の委託等	投資信託に係る事務代行手数料の支払※1	3,883,039	未払手数料	448,037
その他の関係会社の子会社	株式会社三井住友銀行	東京都千代田区	17,709	銀行業	—	—	当社投資信託に係る事務代行の委託等	投資信託に係る事務代行手数料の支払※1	2,570,671	未払手数料	193,755

取引条件及び取引条件の決定方針等

※1 投資信託に係る事務代行手数料については、商品性格等を勘案し総合的に決定しております。

※2 上記金額の内、取引金額には消費税が含まれておらず、期末残高には消費税が含まれています。

第41期（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

兄弟会社等

属性	会社等の名称	住所	資本金 (億円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有割合	関連当事者との関係		取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
						役員の兼任等	事業上の関係				
その他の関係会社の子会社	大和証券株式会社	東京都千代田区	1,000	証券業	—	—	当社投資信託に係る事務代行の委託等	投資信託に係る事務代行手数料の支払※1	5,028,224	未払手数料	536,727
その他の関係会社の子会社	株式会社三井住友銀行	東京都千代田区	17,709	銀行業	—	—	当社投資信託に係る事務代行の委託等	投資信託に係る事務代行手数料の支払※1	2,621,684	未払手数料	250,310

取引条件及び取引条件の決定方針等

※1 投資信託に係る事務代行手数料については、商品性格等を勘案し総合的に決定しております。

※2 上記金額の内、取引金額には消費税が含まれておらず、期末残高には消費税が含まれています。

(1株当たり情報)

	第40期 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	第41期 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
1株当たり純資産額	5,659円69銭	6,140円34銭
1株当たり当期純利益金額	916円79銭	921円57銭

(注) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

1株当たりの当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	第40期 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	第41期 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
当期純利益(千円)	3,529,657	3,548,044
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益(千円)	3,529,657	3,548,044
普通株式の期中平均株式数(千株)	3,850	3,850

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

- (1)自己又はその取締役若しくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)
- (2)運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)
- (3)通常の見積りの条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等（委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下(4)および(5)において同じ。）又は子法人等（委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。）と有価証券の売買その他の取引又は金融デリバティブ取引を行うこと。
- (4)委託会社の親法人等又は子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額若しくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。
- (5)上記(3)および(4)に掲げるもののほか、委託会社の親法人等又は子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為

5【その他】

- (1)定款の変更、事業譲渡または事業譲受、出資の状況その他の重要事項

当社の定款の変更に関しては、株主総会の決議が必要です。

- (2)訴訟事件その他重要事項

委託会社およびファンドに重要な影響を与えると予想される訴訟事件等は発生していません。

委託会社の営業年度は、毎年4月1日より翌年3月31日までとし、営業年度末に決算を行います。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

(1)受託会社

名称	資本金の額（百万円） 平成25年3月末現在	事業の内容
三井住友信託銀行株式会社	342,037	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律（兼営法）に基づき信託業務を営んでいます。

<参考：再信託受託会社（日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社）の概要>

- ・資本金：51,000百万円（平成25年3月末現在）
- ・事業の内容：銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。
- ・再信託の目的：原信託契約にかかる信託事務の一部（信託財産の管理）を原信託受託会社から再信託受託会社（日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社）へ委託するため、原信託財産の全てを再信託受託会社へ移管することを目的とします。

(2)投資顧問会社

①名称

T. ロウ・プライス・インターナショナル・リミテッド
(T.Rowe Price International Ltd)

②資本金の額

平成24年12月末現在：172百万米ドル（約16,957百万円）

（注）米ドルの円貨換算は、平成25年6月末現在の株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信売買相場の仲値（1米ドル＝98.59円）によります。

③事業の内容

同社（所在地：英国ロンドン）は、米国T. ロウ・プライス・グループの運用会社です。同グループの代表的な会社であるT. ロウ・プライス・アソシエイツ・インクは、1937年に設立された会社で、グローバルに資産運用業務を行っております。T. ロウ・プライス・アソシエイツ・インクの親会社であるT. ロウ・プライス・グループ・インクは、米国の上場会社であり、また、S & P 500インデックスの採用銘柄です。T. ロウ・プライス・インターナショナル・リミテッドは、T. ロウ・プライス・グループの運用技術および調査能力を活用することができます。

(3)販売会社

名称	資本金の額（百万円） 平成25年3月末現在	事業の内容
大和証券株式会社	100,000	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
三菱UFJ信託銀行株式会社	324,279	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律（兼営法）に基づき信託業務を営んでいます。

2【関係業務の概要】

(1)受託会社

ファンドの受託会社として、信託財産に属する有価証券の保管・管理・計算等およびその信託事務処理の一部の委託等を行います。

(2)投資顧問会社

委託会社より、運用の指図に関する権限の委託を受けて運用の指図および実行を行います。

(3)販売会社

日本におけるファンドの募集・販売業務、解約金・償還金、収益分配金の支払い等に関する事務等を行います。

3【資本関係】

(1)受託会社

受託会社の三井住友信託銀行株式会社は、ファンドの受益権の発行会社である大和住銀投信投資顧問株式会社の2.1%の株式を保有しています。

(2)投資顧問会社

T. ロウ・プライス・インターナショナル・リミテッドの親会社であるT. ロウ・プライス・アソシエイツ・インクの子会社のTRPH Corporationは、ファンドの受益権の発行会社である大和住銀投信投資顧問株式会社の10.0%の株式を保有しています。

(3)販売会社

大和証券株式会社の親会社である株式会社大和証券グループ本社は、ファンドの受益権の発行会社である大和住銀投信投資顧問株式会社の44.0%の株式を保有しています。

第3【参考情報】

当計算期間において、本ファンドに係る金融商品取引法第25条第1項各号に掲げる書類は、以下のとおり関東財務局長宛に提出しております。

書類名	提出年月日
臨時報告書	平成25年2月8日
有価証券報告書	平成25年2月27日
有価証券届出書の訂正届出書	平成25年2月27日
臨時報告書	平成25年5月10日

独立監査人の監査報告書

平成25年7月12日

大和住銀投信投資顧問株式会社
取締役会 御中

有 限 責 任 あ ず さ 監 査 法 人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 飯田 浩司 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 久野 佳樹 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている毎月分配 ハイクオリティ・ユーロ債券ファンドの平成24年11月28日から平成25年5月27日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、毎月分配 ハイクオリティ・ユーロ債券ファンドの平成25年5月27日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

大和住銀投信投資顧問株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- （注）1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

[次へ](#)

独立監査人の監査報告書

平成25年6月14日

大和住銀投信投資顧問株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 飯田 浩司 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 久野 佳樹 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている大和住銀投信投資顧問株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第41期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、大和住銀投信投資顧問株式会社の平成25年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

※上記は、当社が、独立監査人の監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。